

畜産分野プロジェクト技術協力  
、調査団等派遣実績一覧

JICA LIBRARY



1089408(7)

22191

1990年2月

国際協力事業団畜産開発課

RY

## 畜産分野プロジェクト技術協力調査団等派遣実績一覧

### 目 次

1. タイ家畜衛生改善計画
2. インドネシア家畜衛生改善計画
3. マダガスカル北部畜産開発計画
4. ビルマ養豚養鶏開発計画
5. メキシコ家畜衛生センター計画
6. パラグァイ家畜繁殖改善計画
7. インドネシア動物医薬品検定計画
8. ザンビア大学獣医学部技術協力計画
9. 中国肉類食品総合研究センター計画
10. インドネシア家畜人工授精センター強化計画
11. マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画
12. タイ国立家畜衛生・生産研究所計画
13. ボリヴィア家畜繁殖改善計画
14. アルゼンティン・ラ・プラタ大学獣医学部研究計画
15. 中国・天津酪農業発展計画

国際協力事業団

22191

## 1. タイ家畜衛生改善計画

R/D署名日 (R/D) 1977年 3月 2日  
(延長) 1980年 2月29日  
( // ) 1982年 2月 日  
( // ) 1984年 1月27日  
(A/Cミニッツ) 1988年 7月 6日

協力期間 (R/D) 1977年 3月 2日～1980年 3月 1日  
(延長) 1980年 3月 2日～1982年 3月 1日  
( // ) 1982年 3月 2日～1984年 3月 1日  
( // ) 1984年 3月 2日～1986年 3月 1日  
(A/C) 1988年 7月 6日～1990年 3月31日

### 調査団派遣

- (1) 1976年 9月～10月 実施調査団
- (2) 1977年 2月～ 3月 実施協議調査団
- (3) 1977年 8月 計画打合せ調査団
- (4) 1978年11月～12月 巡回指導調査団 (インドネシア家畜衛生改善計画と合同)
- (5) 1979年11月 評価調査団
- (6) 1980年11月～12月 計画打合せ調査団 (インドネシア家畜衛生改善計画と合同)
- (7) 1981年11月～12月 評価調査団
- (8) 1982年 9月 計画打合せ調査団
- (9) 1983年 8月～ 9月 評価調査団 (第一次)
- (10) 1984年 1月～ 2月 // (第二次)
- (11) 1985年 3月～ 4月 アジア畜産・家畜衛生巡回指導調査団
- (12) 1986年 3月 評価調査団
- (13) 1988年 6月～ 7月 アフターケア調査団

## (1) タイ家畜衛生事業実施調査団

### 1) 派遣の目的

家畜衛生分野での技術協力の基本計画を策定するとともに合意議事録署名に必要とされる技術的事項をタイ国中央政府関係当局と協議し、又、これらに関連する事項を調査する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	協力企画	沢田 実	農林省動物医薬品検査所豚コレラ予防液検査室長
団員	家畜防疫	千田英一	農林省動物検疫所企画調整課長
	〃	ワクチン製造	伊沢久夫 北里研究所附属家畜衛生研究所長
	〃	家畜疾病診断	大森伸夫 農林省畜産局衛生課
	〃	業務調整	藤田陽偉 国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1976年9月22日～1976年10月16日(25日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、口蹄疫研究所、ワクチン製造センター、ハジャイ家畜人工授精所、動物検疫所、南部家畜衛生センター、チェンマイ県畜産事務所、ランバン県畜産事務所、東北部家畜衛生センター、コンケン県畜産事務所

## (2) タイ家畜衛生改善計画実施協議調査団

### 1) 派遣の目的

タイ側関係者と協議し、家畜衛生改善計画に係る討議議事録の署名を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	緒方宗雄	農林省畜産局衛生課課長補佐
団員	協力企画	山本公明	農林省経済局国際協力課協力官
	〃	業務調整	藤田陽偉 国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1977年2月17日～1977年3月3日(15日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、口蹄疫研究所、南部家畜衛生センター、ハジャイ動物検疫

所、ワクチン製造メーカー

### (3) タイ家畜衛生改善計画計画打合せ調査団

#### 1) 派遣の目的

プロジェクトの円滑な推進を図るため、タイ側関係者と協議し、具体的な実施計画の策定を行う。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	熊谷哲夫	農林省家畜衛生試験場第二研究部長
団員	家畜衛生	岡本哲男	農林省動物検疫所名古屋支所調整指導官
	業務調整	小野英男	国際協力事業団畜産開発課課長代理

#### 3) 派遣期間

1977年8月2日～1977年8月14日(13日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、FMDセンター、獣医研究所、南部家畜衛生センター、パダンベサー動物輸出検疫所

### (4) タイ・インドネシア家畜衛生改善計画巡回指導調査団

#### 1) 派遣の目的

タイ家畜衛生改善計画及びインドネシア家畜衛生改善計画の現在までの協力事業のレビューと今後の事業計画について相手国政府関係者と協議するとともにプロジェクト・サイドにおいて運営、技術上の問題について、派遣専門家並びに関係当局に対し必要な指導・助言を行う。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	柴田 重孝	日本学術会議会員(元家畜衛生試験場長)
団員	口 蹄 疫	熊谷 哲夫	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部長
	衛生センター	緒方 宗雄	農林水産省畜産局衛生課課長補佐
	業務調整	佐藤よし江	国際協力事業団畜産開発課

#### 3) 派遣期間

1978年11月23日～1978年12月12日(20日間)

#### 4) 主な調査、訪問先 (タイ)

農業協同組合省畜産振興局、FMDセンター、南部家畜衛生センター、ソクラ大学

#### (5) タイ家畜衛生改善計画評価調査団

##### 1) 派遣の目的

本計画の現在までの事業実績を調査し、当初設定目標の達成度を評価するとともに、今後の技術協力の方向についてタイ国政府関係者と協議・検討する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	山本 格也	地方競馬全国協会理事
団員	口 蹄 疫	杉森 正	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部 口蹄疫免疫研究室長
〃	家畜衛生	岡本 哲男	農林水産省動物検疫所名古屋支所四日市出張所長
〃	業務調整	武田 雄八	国際協力事業団畜産開発課

##### 3) 派遣期間

1979年11月14日～1979年11月28日(15日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、FMDセンター、南部家畜衛生センター

#### (6) タイ・インドネシア家畜衛生改善協力合同計画打合せ調査団

##### 1) 派遣の目的

タイ家畜衛生改善計画及びインドネシア家畜衛生改善計画の技術協力延長に伴い、両プロジェクトの現況を調査し、今後における具体的な協力方法及び運営等について、タイ側及びインドネシア側関係者と協議する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括(タイ担当)	藤崎 優一郎	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部長
〃	〃 (インドネシア担当)	沢田 実	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部長
団員	口 蹄 疫	米村 弘	農林水産省動物検疫所調整指導官
〃	家畜衛生	間 邦彦	農林水産省畜産局衛生課保健衛生班 課長補佐
〃	業務調整	武田 雄八	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1980年11月21日～1980年12月13日(23日間)

### 4) 主な調査、訪問先(タイ)

農業協同組合省畜産振興局、FMDセンター、南部家畜衛生センター

## (7) タイ家畜衛生改善計画評価調査団

### 1) 派遣の目的

タイ家畜衛生改善技術協力計画の現在までの事業実績を見直し、前回の評価結果で指摘された問題点の消化状況を確認のうえ、当初設定目標の達成度を評価する。また、計画推進上、協力延長の要請がタイ国政府から提示された場合はその必要性並びに妥当性等について協議、検討を行うとともに、今後の技術協力の方向について、タイ国政府関係者と協議、検討を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	小山国治	競走馬理化学研究所理事
団員	口 蹄 疫	徳田悟一	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部口蹄疫診断研究室長
	家畜衛生	岡本哲男	農林水産省動物検疫所企画調整課長
	企 画	井上剛光	農林水産省畜産局衛生課家畜衛生指導官
	業務調整	武田雄八	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1981年11月24日～1981年12月11日(18日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、FMDセンター、南部家畜衛生センター

## (8) タイ家畜衛生改善計画計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

2ヵ年間延長された本プロジェクトの実行計画の作成、専門家派遣計画、機材供与計画、研修員受入計画等並びに口蹄疫ワクチン製造センターと家畜衛生センターにおける今後の運営等についてタイ側関係者と協議する。



## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	河野 彬	農林水産省畜産局衛生課課長補佐
団員	口 蹄 疫	古内 進	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部主任研究員
〃	家畜衛生	佐野博彦	農林水産省畜産局衛生課国際事務係長
〃	業務調整	武田雄八	国際協力事業団畜産開発課

## 3) 派遣期間

1982年9月15日～1982年9月30日(16日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、FMDセンター、南部家畜衛生センター

## (9) タイ家畜衛生改善計画第一次評価調査団

### 1) 派遣の目的

2ヵ年の延長R/D期間の終了を控え、これまでの事業の進捗状況进行评估し、今後の技術協力の方向について、タイ国政府関係者と協議・検討を行う。特に、口蹄疫ワクチンの流通・普及状況及び家畜重要疾病の野外調査はコンサルタント役務提供により行う。

### 2) 調査団員の構成

#### ①第一次チーム

	担当	氏名	所 属
団員	口蹄疫ワクチン普及状況	山口本治	(社)中央畜産会技術嘱託
〃	家畜重要疾病調査	菊野達郎	(社)中央畜産会技術嘱託

#### ②第二次チーム

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	今井 正夫	農林水産省畜産局衛生課薬事室長
団員	口 蹄 疫	水野 喜夫	農林水産省家畜衛生試験場東北支場第二研究室長
〃	家畜衛生	吉村 史朗	農林水産省畜産局衛生課国内防疫第一係長
〃	業務調整	銚之原節夫	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

#### ①第一次チーム

1983年8月6日～1983年9月9日(35日間)

#### ②第二チーム

1983年9月3日～1983年9月18日(16日間)

4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、第7、第8、第9地区畜産事務所・獣医事務所、南部家畜衛生センター、FMDセンター

(10) タイ家畜衛生改善計画第二次評価調査団

1) 派遣の目的

前年の第一次評価調査団報告を踏まえ、①口蹄疫ワクチン製造センターの協力の2年間の延長、②南部家畜衛生センターの協力の終了という方針に基づき、タイ側関係者と協議し、延長R/Dの署名、延長期間の暫定実施計画の作成を行う。

2) 調査団員の構成

団長 総括兼家畜衛生 緒方 宗雄 国際協力事業団国際協力専門員  
団員 ワクチン製造 徳井 忠史 農林水産省家畜衛生試験場海外伝染病部  
ウイルス研究室長  
〃 業務調整 栗城俊之助 国際協力事業団畜産開発課課長代理

3) 派遣期間

1984年1月25日～1984年2月3日(10日間)

4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、南部家畜衛生センター、FMDセンター

(11) アジア(インドネシア、タイ)畜産・家畜衛生巡回指導調査団

1) 派遣の目的

インドネシア及びタイにおいて現在実施中ないしは最近終了したプロジェクト及びその関連施設を巡回し、今後の技術援助の円滑な推進に必要な資料を得る。併せて、家畜生産分野における技術協力の可能性を調査する。

2) 調査団員の構成

担当	氏名	所属
団長 総括	阿部 猛夫	(社)家畜改良事業団顧問
団員 家畜生産	上野 暉男	(財)日本軽種馬登録協会専務理事
〃 (注)業務調整	銚之原節男	国際協力事業団畜産開発課

(注) 同時期に派遣されたアジア畜産、家畜衛生機材維持管理調査団の業務調整として派遣

3) 派遣期間

1985年3月31日～1985年4月13日(14日間)

4) 主な調査、訪問先(タイ)

パクチョンFMDセンター、飼料作物試験場、酪農振興事業場、タブクワン種畜牧場、  
家畜衛生・生産研究所建設予定地

(12) タイ家畜衛生改善計画評価調査団

1) 派遣の目的

9か年間(1977年3月2日～1986年3月1日)の協力を終了することとなった本プロジェクトについて、協力期間における口蹄疫ワクチン製造センターの諸活動について総合評価を行う。

2) 調査専門家の構成

氏名	所 属
熊谷哲夫	東京農工大学教授
本橋常正	日本生物科学研究所常務理事
徳井忠史	農林水産省家畜衛生試験場研究第2部ウイルス第一研究室室長
小野英男	国際協力事業団畜産開発課課長

3) 派遣期間

1986年3月10日～1986年3月28日(19日間)

4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、FMDセンター、国立家畜衛生・生産研究所建設予定地、カセサート大学獣医学部カンペンセン分校

(13) タイ家畜衛生改善計画アフターケア調査団

1) 派遣の目的

協力終了後4年を経過した南部家畜衛生センターの現状と問題点を把握し、併せて協力成果を維持・向上させるために必要な機材供与、専門家派遣、研修員受入計画等について調査し、先方政府関係者と協議する。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼疫学	岡本哲男	農林水産省動物検疫所検疫部長
団員	家畜疾病診断	中島靖之	農林水産省家畜衛生試験場東北支場主任研究官
	業務調整	岩谷 寛	国際協力事業団畜産開発課

## 3) 派遣期間

1988年6月26日～1988年7月7日(12日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、南部家畜衛生センター、ハジャイ動物検疫所、国立家畜衛生・生産研究所、FMDセンター、畜産農家

## 2. インドネシア家畜衛生改善計画

R/D署名日	(R/D)	1977年	7月	7日				
	(延長)	1980年	7月	7日				
協力期間	(R/D)	1977年	7月	7日	～	1980年	7月	6日
	(延長)	1980年	7月	7日	～	1982年	7月	6日
	(F/U)	1982年	7月	7日	～	1984年	7月	6日
	(A/C)	1987年	4月	1日	～	1989年	3月	31日

### 調査団派遣

- (1) 1976年 6月～ 7月 予備調査団
- (2) 1977年 1月～ 7月 長期調査員
- (3) 1977年 6月～ 7月 実施協議調査団
- (4) 1978年 2月～ 3月 計画打合せ調査団
- (5) 1980年 2月～ 3月 評価調査団
- (6) 1980年11月～12月 計画打合せ調査団 (タイ家畜衛生改善計画と合同)
- (7) 1981年11月～12月 評価調査団
- (8) 1983年 7月～ 8月 巡回指導調査団
- (9) 1983年12月                   "                   (口蹄疫コンタクト)
- (10) 1985年 3月～ 4月 アジア畜産・家畜衛生巡回指導調査団
- (11) 1987年 6月～ 7月 アフターケア調査団

## (1) インドネシア国家畜衛生協力予備調査団

### 1) 派遣の目的

インドネシアにおける家畜衛生の実態と問題点の把握、畜産振興政策と家畜衛生との関連、家畜衛生分野における国際機関及び海外先進諸国の協力状況等を中心に中央並びに地方政府関係当局者との討議及び現地調査を通じて我が国の協力の可能性調査及び協力の基本構想を策定する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	緒方宗雄	農林省畜産局衛生課課長補佐
団員	診 断	井上 勇	埼玉県大宮家畜保健衛生所病性鑑定課長
〃	防 疫	米村 弘	農林省動物検疫所東京支所検疫管理官
〃	企画兼業務調整	藤田陽偉	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1976年6月22日～1976年7月16日(25日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、ボゴール家畜衛生試験場、スラバヤ家畜衛生試験場、バリ州畜産局、北スマトラ州畜産局、南スマトラ州畜産局、ランボン州畜産局

## (2) インドネシア家畜衛生協力長期調査員

### 1) 派遣の目的

インドネシアへの家畜衛生協力の計画立案に関する調査、協議を行う。

### 2) 長期調査員

氏名	所 属
屋部憲清	松岡科学研究所
鈴木寿夫	農林省動物検疫所神戸支所

### 3) 派遣期間

1977年1月10日～1977年7月9日(6か月間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、南スラウェン州畜産局、バリ州畜産局、西スマトラ州畜産局、北スマトラ州畜産局、ランボン州畜産局、スラバヤ動物用生物学的製剤センター、家畜衛生試験場

### (3) インドネシア家畜衛生協力実施協議調査団

#### 1) 派遣の目的

インドネシア関係当局者との協議を実施してR/Dに署名すること、専門家の派遣、機材の供与等初年度協力計画について打合せを行う。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	緒方宗雄	農林省畜産局衛生課課長補佐
団員	家畜疾病診断	貝塚一郎	農林省動物医薬品検査所検査第一部 豚コレラ予防液検査室長
〃	家畜防疫	鳥生厚夫	農林省動物検疫所企画調整課企画係長
〃	動物用生物学的製剤	岩本市蔵	(株)微生物化学研究所製剤業務部長
〃	協力企画及び業務調整	藤田陽偉	国際協力事業団畜産開発課課長代理

#### 3) 派遣期間

1977年6月21日～1977年7月13日(23日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、北スマトラ州畜産局、ランボン州畜産局、ランボン農科大学、南スラウ  
ェシ州畜産局

### (4) インドネシア家畜衛生改善計画計画打合せ調査団

#### 1) 派遣の目的

プロジェクトの円滑な推進を図るため、R/D及びEx-Notesに基づく具体的な年次別事業計画の策定、78年度機材供与計画の協議等を行う。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	貝塚 一郎	農林省動物医薬品検査所豚コレラ予防液検査室長
団員	家畜衛生	朝日 光久	農林省動物検疫所企画調整課調整係長
〃	業務調整	佐藤よし江	国際協力事業団畜産開発課

#### 3) 派遣期間

1978年2月21日～1978年3月8日(16日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、北スマトラ州畜産局、ランボン州畜産局

#### (5) インドネシア家畜衛生改善計画評価調査団 (第1次)

##### 1) 派遣の目的

協力期間(3か年)の終了を数か月後にひかえ、プロジェクト事業の当初目標の達成度、問題点を調査し、今後の協力方針の指針とする。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	佐沢弘士	農林水産省動物医薬品検査所所長
団員	協力企画	緒方宗雄	農林水産省畜産局衛生課課長補佐
	〃 家畜衛生	小島輝夫	農林水産省動物検疫所福岡空港出張所検疫管理官
	〃 業務調整	小野英男	国際協力事業団畜産開発課課長代理

##### 3) 派遣期間

1980年2月27日～1980年3月16日(19日間)

##### 4) 主な調査・訪問先

農業省畜産総局、メダン家畜衛生センター、タンジュンカラ家畜衛生センター、西ジャワ州畜産局、レンバン家畜人工授精センター、ボゴール家畜衛生試験場、スラバヤ動物用生物製剤センター

#### (6) タイ・インドネシア家畜衛生改善協力合同計画打合せ調査団

##### 1) 派遣の目的

タイ家畜衛生改善計画及びインドネシア家畜衛生改善計画の技術協力延長に伴い、両プロジェクトの現況を調査し、今後における具体的な協力方法及び運営等について、タイ側及びインドネシア側関係者と協議する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括(タイ担当)	藤崎優一郎	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部長
	〃 (インドネシア担当)	沢田 実	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部長
団員	口 蹄 疫	米村 弘	農林水産省動物検疫所調整指導官
	〃 家 畜 衛 生	間 邦彦	農林水産省畜産局衛生課課長補佐
	〃 業 務 調 整	武田 雄八	国際協力事業団畜産開発課



### 3) 派遣期間

1980年11月21日～1980年12月13日(23日間)

### 4) 主な調査、訪問先(インドネシア)

メダンD I C、タンジュンカラND I C、農業省畜産総局

## (7) インドネシア家畜衛生改善計画評価調査団(第2次)

### 1) 派遣の目的

前回のエバリュエーション以降の協力期間延長2年間のプロジェクトの進捗状況を調査し、協力期間終了後の対応に関し、インドネシア側関係者と協議する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	緒方宗雄	農林水産省畜産局衛生課長
団員	家畜衛生	田中正三	農林水産省動物医薬品検査所無菌検査室長
	〃	家畜衛生	松原謙一 農林水産省畜産局衛生課
	〃	協力企画	森山浩光 農林水産省畜産局畜政課
	〃	業務調整	黒川恒男 国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1981年11月29日～1981年12月17日(19日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、メダンD I C、タンジュンカラND I C、ジョクジャカラタD I C

## (8) インドネシア家畜衛生改善計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの終了を1年後に控え、メダンD I C及びタンジュンカラND I Cの将来計画を把握し、センターの効率的な運営に必要な技術上、資機材・設備上の問題点について、日本人専門家、イ側関係者と協議し、対応を検討する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	小川 信雄	農林水産省畜産局衛生課課長補佐
団員	家畜衛生	森山 浩光	農林水産省畜産局畜政課国際経済係長
	〃	業務調整	栗城俊之助 国際協力事業団畜産開発課課長代理

3) 派遣期間

1983年7月17日～1983年8月1日(16日間)

4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、ボゴール家畜衛生研究所、メダンD I C、タンジュンカラND I C、デ  
ンバサーLD I C

(9) インドネシア家畜衛生改善計画巡回指導調査団(口蹄疫コンタクト)

1) 派遣の目的

インドネシアにおいて、1983年7月に発生した口蹄疫が拡大しつつあり、これに対す  
る防疫措置に関する協力要請があり、我が国は、実施中のインドネシア家畜衛生改善計画の  
基本的枠内で協力を行うこととし、協力事業の具体化のための調査協議を行う。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括・口蹄疫	石井達郎	農林水産省畜産局衛生課課長補佐
団員	技術協力	小野英男	国際協力事業団畜産開発課長

3) 派遣期間

1983年12月4日～1983年12月10日(7日間)

4) 主な調査、訪問先

(インドネシア) 農業省畜産総局、Tangerang 州畜産局、Serang州畜産局  
(タイ) 農業協同組合畜産振興局

(10) アジア(インドネシア、タイ)畜産・家畜衛生巡回指導調査団

1) 派遣の目的

インドネシア及びタイにおいて現在実施中ないしは最近終了したプロジェクト及びその関  
連施設を巡回し、今後の技術援助の円滑な推進に必要な資料を得る。併せて、家畜生産分野  
における技術協力の可能性を調査する。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	阿部 猛夫	(社)家畜改良事業団顧問
団員	家畜生産	上野 曄男	(財)日本軽種馬登録協会専務理事

〃 (注) 業務調整 銚之原節夫 国際協力事業団畜産開発課

(注) 同時期に派遣されたアジア畜産・家畜衛生機材維持管理調査団の業務調整として派遣

3) 派遣期間

1985年3月31日～1985年4月13日(14日間)

4) 主な調査、訪問先(インドネシア)

(インドネシア) 農業省畜産総局、動物医薬品検査所、チアウイ畜産研究所、レンバン家畜人工授精センター、西ジャワ州畜産局、メダンD I C

(11) インドネシア家畜繁殖改善計画アフターケア調査団

1) 派遣の目的

1984年7月まで実施された本計画フォローアップの終了後の現状と問題点を把握し、併せて協力成果を維持・発展させるために必要な専門家派遣、機材供与等のアフターケア計画についてインドネシア側関係者と協議する。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼家畜衛生	柏崎 守	農林水産省家畜衛生試験場研究第一部細菌第一研究室長
団員	家畜防疫	藤本達男	農林水産省動物検疫所企画調整課主任検疫官
〃	業務調整	岩倉 栄	国際協力事業団畜産開発課課長代理

3) 派遣期間

1987年6月21日～1987年7月2日(12日間)

4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、タンジュンカラND I C、メダンD I C、動物医薬品検査所

### 3. マダガスカル北部畜産開発計画

R/D署名日 (R/D) 1977年11月11日  
(延長) 1980年 9月25日  
(A/C) 1986年 8月 8日

協力期間 (R/D) 1977年11月11日～1980年11月10日  
(延長) 1980年11月11日～1983年11月10日  
(A/C) 1986年 4月 1日～1988年 3月31日

#### 調査団派遣

- (1) 1973年 8月～ 9月 予備調査団
- (2) 1975年 9月～10月 実施計画調査団
- (3) 1977年 3月～ 4月 計画打合せ調査団
- (4) 1977年 6月～12月 長期調査員
- (5) 1977年10月～11月 実施協議調査団
- (6) 1980年 3月～ 4月 巡回指導調査団
- (7) 1980年 9月 評価調査団
- (8) 1981年 7月～ 8月 計画打合せ調査団
- (9) 1982年 6月 巡回指導調査団
- (10) 1983年 8月～ 9月 評価調査団
- (11) 1986年 7月～ 8月 アフタケア調査団

## (1) マダガスカル畜産振興予備調査団

### 1) 派遣の目的

マダガスカル政府からの技術協力の要請に対応し、マダガスカル北部地域に対する我が国の農業（畜産）協力の可能性についての予備調査を行う。

### 2) 調査団員の構成

	氏名	所 属
団長	島田友昭	農林省畜産局
団員	内藤 明	通産省貿易局
〃	金井俊男	農林省畜産局
〃	塚田恒雄	海外技術協力事業団
オブザーバー	石渡耕治	外務省経済協力局

### 3) 派遣期間

1973年8月16日～1973年9月5日（21日間）

### 4) 主な調査、訪問先

地方開発省、マジュンガ州畜産局、ミアダナ畜産・飼料研究センター、アンボロヴィ繁殖育成センター、ディエゴ・スワレス州畜産局、ファナンバナ国立牧場、ヴォイラヴァ国立飼育センター

## (2) マダガスカル畜産開発技術協力実施計画調査団

### 1) 派遣の目的

1973年の予備調査後にマダガスカル政体が変わったことから、1973年の要請内容、実施機関等に変更がないことを確認するとともに、予備調査に基づき実施可能な技術協力の具体的な枠組を検討・協議する。

### 2) 調査団員の構成

	氏名	所 属
団長	吉田平二郎	国際協力事業団理事
団員	豊田 晋	農林省岩手種畜牧場場長
〃	杉本 忠利	農林省農林経済局国際協力課課長補佐
〃	富永 真人	農林省動物検疫所検疫管理官
〃	伊藤 弓	農林省畜産局家畜生産課肉牛係長
〃	板橋 勅	国際協力事業団農業開発協力部
	高橋 弘二	国際協力事業団農業開発協力部
	川部 岑生	国際協力事業団農業開発協力部

### 3) 派遣期間

1975年9月17日～1975年10月8日(22日間)

### 4) 主な調査、訪問先

地方開発省、ディエゴ・スワレス州畜産局、アンボロヴィ繁殖育成センター、民間農家・農場

## (3) マダガスカル北部畜産開発計画計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

日本人専門家特権免除問題等について協議・確認し、本計画の推進を図る。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	堀 力	日本軽種馬登録協会専務理事
団員	畜 産	織田信美	農林省奥羽種畜牧場獣医官
	〃 業務調整	板橋 勅	国際協力事業団畜産開発課長

### 3) 派遣期間

1977年3月29日～1977年4月11日(14日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農林省畜水産局、マジュンガ畜産・飼料研究所、Tsiroanomandidy 畜産・飼料研究所、民間牧場

## (4) マダガスカル北部畜産開発計画長期調査員

### 1) 派遣の目的

本計画開始の円滑な実施を図るため、マダガスカル側関係者とプロジェクト全体計画・年次別実施計画について協議・打合を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
	畜産経済	小野基雄	無職
	畜 産	船津秀雄	国際協力事業団特別嘱託

### 3) 派遣期間

1977年6月6日～1977年12月5日(6か月間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農林省畜水産局、ディエゴ・スワレス畜産局、アンボロヴィ獣医所、Vohemar 獣医所、ディエゴ・スワレス獣医所

#### (5) マダガスカル北部畜産開発計画実施協議調査団

##### 1) 派遣の目的

実施計画調査、協議打合せ調査、長期調査の結果を踏まえ、プロジェクト実施計画についてマダガスカル側関係者と協議し、討議議事録に署名する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	菅野哲光	農林省畜産局家畜生産課課長補佐
団員	飼 料	厨子広明	農林省長野種畜牧場
	企 画	板橋 勅	国際協力事業団畜産開発課長
	業務調整	富永純正	国際協力事業団海外青年協力隊事務局員

##### 3) 派遣期間

1977年10月22日～1977年11月14日(24日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農林省畜水産局、ディエゴ・スワレス州畜産局、アンボロヴィ獣医所

#### (6) マダガスカル北部畜産開発計画巡回指導調査団

##### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を調査するとともに、残された協力期間の実施計画について日本人専門家及びマダガスカル側関係者と協議する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	佐々木国利	農林水産省畜産局家畜衛生課
団員	畜 産	岩本 周二	農林水産省奥羽種畜牧場種畜課
	農業土木	的場 泰信	国際協力事業団農業開発課
	業務調整	武田 雄八	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1980年3月14日～1980年4月9日(27日間)

### 4) 主な調査、訪問先

地方開発省畜水産局、北部畜産開発センター、アンチラナナ州地方開発局、アンチラナナ市営と場

## (7) マダガスカル北部畜産開発計画評価調査団

### 1) 派遣の目的

1980年11月10日をもって協力期間が終了することから、3年間の事業実績を確認し、その結果を評価のうえ、今後についてのマ側の意向を聴取し、それらを総合的に検討し、本プロジェクトの実施期間の延長の可否について判断する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	続 省三	中央畜産会常務理事
団員	飼料作物	平山 勲	農林水産省日高種畜牧場次長
	畜 産	三浦 昇	農林水産省鳥取種畜牧場種畜課長
	企 画	板橋 勅	国際協力事業団畜産開発課課長
	業務調整	黒川恒男	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1980年9月5日～1980年9月29日(25日間)

### 4) 主な調査、訪問先

地方開発省畜水産局、北部畜産開発センター、アンチラナナ州地方開発局、酪農センター、Vohiraba牧場、Vohemar 獣医所、Ambilobe獣医所

## (8) マダガスカル北部畜産開発計画計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

3か年の延長期間の協力活動の円滑な実施に資するため、研修カリキュラム、C/P配置、センター予算措置等について、マダガスカル側関係者と協議する。



## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	高橋 潔	農林水産省鳥取種畜牧場場長
団員	業務調整	黒川恒男	国際協力事業団畜産開発課

## 3) 派遣期間

1981年7月23日～1981年8月7日(15日間)

## 4) 主な調査、訪問先

地方開発省畜水産局、北部畜産開発センター、獣医所

## (9) マダガスカル北部畜産開発計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

マ側の情勢等事実関係の確認、プロジェクトの問題点の把握及び運営上技術指導を行い、今後の協力方針、全体計画等をマ側関係者ならびに派遣専門家と打合せを行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	池田森男	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター場長
団員	協力企画	横井 茂	農林水産省経済局国際協力課
	協力政策	福島竜朗	外務省中近東アフリカ局アフリカ課研究調査員
	業務調整	小野英男	国際協力事業団畜産開発課長

### 3) 派遣期間

1982年6月1日～1982年6月13日(13日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業改革省畜水産局、北部畜産開発センター、ディエゴスワレス県獣医所、民間養豚場

## (10) マダガスカル北部畜産開発計画評価調査団

### 1) 派遣の目的

1983年11月10日でR/Dによる協力期間が終了する予定の本プロジェクトにつき、協力期間中における目的達成度、事業実績、投入実績(専門家派遣、研修員受入、機材供与他)を調査評価し、日本側及びマダガスカル側に対し、今後のプロジェクトのあり方につき提言する。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	北川斐夫	牛乳輸送施設リース協会常務理事
団員	協力企画	板橋 勅	日本草地協会調査部長
	〃 家畜衛生	大畑親一	農林水産省熊本種畜牧場
	〃 業務調整	柏原裕司	国際協力事業団畜産開発課

## 3) 派遣期間

1983年8月21日～1983年9月12日(23日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農業改革省畜水産局、北部畜産開発センター、アニボラノード獣医所、農家

## (11) マダガスカル北部畜産開発計画アフターケア調査団

### 1) 派遣の目的

協力終了後の現状と問題点を把握し、併せて協力成果を維持・発展させるために必要な機材供与、専門家派遣、研修員受入れ等の計画についてマダガスカル側関係者と協議する。

### 2) 調査団員の構成

団長	総 括	高橋 潔	農林水産省福島種畜牧場長
団員	協力企画	今井豊司	農林水産省経済局国際協力課
	〃 家畜衛生	米村 弘	農林水産省動物検疫所国際検疫専門官
	〃 機材保守	丑田 晋	(株)インターフレイト代表取締役
	〃 業務調整	岩倉 栄	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1986年7月27日～1986年8月13日(18日間)

### 4) 主な調査、訪問先

畜水産林野省畜水産局、ディエゴ・スワレス州畜産局、アンチラナナ畜産技術指導センター、アニボラ獣医所、ソード獣医所

#### 4. ビルマ養豚・養鶏開発計画

R/D署名日 (R/D) 1978年 4月12日

協力期間 (R/D) 1978年 4月12日～1982年 4月11日  
(延長) 1982年 4月12日～1983年 4月11日  
(A/C) 1985年 4月 1日～1987年 3月31日

#### 調査団派遣

- (1) 1976年11月～12月 アジア地域畜産開発プロジェクトファイニング調査団
- (2) 1978年 1月～ 2月 事前調査団
- (3) 1978年 4月～ 5月 実施協議調査団
- (4) 1979年 1月～ 2月 計画打合せ調査団
- (5) 1980年 1月～ 2月 巡回指導調査団
- (6) 1981年 3月 ”
- (7) 1981年11月～12月 評価調査団
- (8) 1982年10月 巡回指導調査団
- (9) 1982年 7月 アフターケア調査団

## (1) アジア地域畜産開発プロジェクトファイナニング調査団

### 1) 派遣の目的

アジア地域（ビルマ、ラオス）の畜産事情、国家開発計画における畜産振興の位置付け等を調査し、新規プロジェクトの発掘に資する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	江口 和夫	日本食肉格付協会専務理事
団員	家畜生産	池田 森男	農林省奥羽種畜牧場場長
	家畜飼料	井手上忠次	農林省福島種畜牧場飼料課長
	家畜衛生	金谷 和夫	農林省畜産局衛生課家畜専門指導官
	業務調整	小野 英男	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1976年11月29日～1976年12月20日（22日間）

### 4) 主な調査、訪問先（ビルマ）

農林省、畜産開発公社、畜産開発公社農場（10マイイ、9マイル、タバン、バセインジー）、農業公社農場（ニャングウー、チャウバタン）、畜産公社マンガレー地区事務所、農林省獣医畜産局、獣疫研究所、ラングーン大学獣医畜産学部、一般農家・農場

## (2) ビルマ畜産開発計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

「ビルマ養豚、養鶏開発計画」（要請）について、ビルマ側関係者と協議し、また、関係施設等を調査し、技術協力の可能性及び協力計画を策定する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	経徳礼文	農林省畜産局家畜生産課課長補佐
団員	家畜（鶏）	西村一三	農林省白河種畜牧場業務第二課長
	家畜衛生	飯田英昭	農林省畜産局衛生課家畜防疫官
	畜産（豚）	永田克幸	農林省白河種畜牧場茨城支場業務第一課種豚係長
	業務調整	小野英男	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1978年1月18日～1978年2月4日（18日間）

#### 4) 主な調査、訪問先

農林省、畜産開発公社、10マイル農場、ダニンゴン農場、ラングーン屠場、獣医研究所、養豚・養鶏農家

### (3) ビルマ畜産開発計画実施協議調査団

#### 1) 派遣の目的

事前調査の結果に基づき、協力計画の基本的枠組につきビルマ側関係者と協議し、討議議事録としてとりまとめるとともに、具体的な事業実施計画を協議する。併せて、畜舎設計に協力する。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	山下喜弘	農林省畜産局家畜生産課課長補佐
団員	畜 産	関 令二	農林省白河種畜牧場次長
	〃 豚舎設計	大石有一	農林省白河種畜牧場茨城支場業務第一課長
	〃 鶏舎設計	秋山正治	農林省白河種畜牧場検定課長
	〃 業務調整	小野英男	国際協力事業団畜産開発課課長代理

#### 3) 派遣期間

1978年4月5日～1978年5月4日(30日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農林省、畜産開発公社、10マイル農場、ダニンゴン飼料工場、ピン・マ・ピン農場、養豚・養鶏農家

### (4) ビルマ畜産開発計画計画打合せ調査団

#### 1) 派遣の目的

プロジェクトの現況調査を行うと共に、その問題点及び1979年度の事業計画等について、ビルマ政府関係者と協議する。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	経徳礼文	農林水産省畜産局家畜生産課課長補佐
団員	畜 産	小森邦男	農林水産省畜産局畜政課研修指導官
	〃 業務調整	須藤和男	国際協力事業団畜産開発課

3) 派遣期間

1979年1月25日～1979年2月5日(12日間)

4) 主な調査、訪問先

農林省、畜産開発公社、10マイル農場、ピン・マ・ビン農場、民間孵卵場

(5) ビルマ養豚養鶏開発計画巡回指導調査団

1) 派遣の目的

プロジェクト事業の現状を調査し、日本人専門家、ビルマ側関係者とその事業運営につき協議打合せを行ない、今後の事業推進について指導を行なう。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	広瀬正美	全国農業協同組合連合会技術主幹
団員	養 豚	尾形真二	農林水産省白河種畜牧場茨城支場
〃	養 鶏	島田英幸	農林水産省白河種畜牧場
〃	業務調査	板橋 勅	国際協力事業団畜産開発課課長

3) 派遣期間

1980年1月29日～1980年2月10日(13日間)

4) 主な調査、訪問先

農林省、畜産開発公社、10マイル農場、ピン・マ・ビン農場、スクール・ファーム

(6) ビルマ養豚養鶏開発計画巡回指導調査団

1) 派遣の目的

協力期間の最終年度を迎えるにあたって、プロジェクトの技術、運営上の問題について協議するとともに、機材調達等の調査を行い、事業推進に役立てる。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	和島昭一郎	農林水産省宮崎種畜牧場々長
団員	機 材	加藤 稔	国際協力事業団無償協力調達部機材二課課長代理
〃	業務調整	鍋屋 史朗	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1981年3月11日～1981年3月20日(10日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農林省、畜産開発公社、10マイル農場、ピアジー農場

## (7) ビルマ養豚養鶏開発計画評価調査団

### 1) 派遣の目的

1982年4月11日に終了予定となっているプロジェクトのこれまでの進捗状況及び事業実績を調査し、これに基づきビルマ側と合同でプロジェクトの評価を行い、協力期間延長の可否を含めた今後の協力方針を検討する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	山崎隆司	国際協力事業団農林水産計画調査部長
団員	養 豚	尾形真二	農林水産省白河種畜牧場茨城支場業務第一課長
	養 鶏	成田行廣	農林水産省白河種畜牧場育すう係長
	飼 料	細見隆夫	農林水産省長野種畜牧場種苗課長
	業務調整	鍋屋史朗	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1981年11月19日～1981年12月3日(15日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農林省、畜産開発公社、10マイル農場、ファセンジ農場、ウォン・ビ・イン農場、ダニンゴン農場、ビン・マ・ビン農場

## (8) ビルマ養豚養鶏開発計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

昨年12月のエバリュエーションの結果、協力期間(4ヵ年)を1ヵ年延長することとなったが、エバリュエーション後のプロジェクトの進捗状況を把握し、58年4月協力終了時点までの目標の達成見通しを明らかにし併せて終了後も含むプロジェクト運営上の諸課題についてビルマ側関係者と協議しプロジェクトの円滑な移管をはかる。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼養鶏	大戸加統	農林水産省岡崎種畜牧場長
団員	養 豚	尾形真二	農林水産省白河種畜牧場茨城支場業務第一課長
〃	技術協力	小野英男	国際協力事業団畜産開発課課長

## 3) 派遣期間

1982年10月17日～1982年10月31日(15日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農林省、畜産開発公社、10マイル農場、ピン・マ・ビン農場、バセンジー農場、ナッエカン農場、マンガレー獣医局・人工授精センター、オンテージ農場、イワダジ農場、バヤジー農場

## (9) ビルマ養豚養鶏開発計画アフターケア調査団

### 1) 派遣の目的

ビルマ養豚養鶏開発計画の協力終了後の現状と問題点を把握し、併せて協力成果を維持・発展させるために必要な機材供与・専門家派遣などのアフターケア計画についてビルマ側関係者と協議する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼養鶏	河村 治	農林水産省岡崎種畜牧場長
団員	養 豚	伊藤政美	農林水産省中国種畜牧場種畜課長補佐
〃	飼料分析	村上哲雄	(財)日本穀物検定協会中央研究所主事
〃	機材管理	川口末広	富士平工業株式会社技術顧問
〃	技術協力	小野英男	国際協力事業団畜産開発課長

### 3) 派遣期間

1985年7月19日～1985年7月30日(12日間)

### 4) 主な調査、訪問先

畜水産省、畜産開発公社、10マイル農場、中央家畜衛生センター、ピン・マ・ビン飼料工場、養豚・養鶏農家



## 5. メキシコ家畜衛生センター計画

R/D署名日 (R/D) 1981年 4月14日

協力期間 (R/D) 1981年 6月 1日～1986年 5月31日

(F/U) 1986年 6月 1日～1987年 5月31日

### 調査団派遣

- (1) 1980年 7月～ 8月 事前調査団
- (2) 1981年 3月～ 4月 実施協議調査団
- (3) 1982年 2月 計画打合せ調査団
- (4) 1983年 1月～ 2月 巡回指導調査団
- (5) 1983年11月 //
- (6) 1984年10月～11月 //
- (7) 1986年 4月 評価調査団
- (8) 1987年 6月～ 7月 フォローアップ調査員
- (9) 1988年11月～12月 中南米地域農林水産プロジェクト事後評価調査団

## (1) メキシコ動物ウイルスセンター技術協力事前調査団

### 1) 派遣の目的

動物ウイルスセンターに対する技術協力の要請に対応し、要請内容を的確に把握し、メキシコ側の受入機関、実施機関の機能、体制等技術協力を実施する場合に必要な資料・情報を得、プロジェクト技術協力実施の可能性を調査する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	佐澤 弘士	農林水産省家畜衛生試験場製剤研究部長
団員	動物ウイルス	清水悠紀臣	農林水産省家畜衛生試験場製剤研究部豚コレラ室長
〃	家畜衛生	林 茂昭	農林水産省畜産局衛生課家畜衛生指導官
〃	協力企画	吉永 健治	農林水産省経済局国際協力課技術協力担当官
〃	業務調整	栗城俊之助	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1980年7月21日～8月10日(21日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業水資源省家畜衛生局、動物ウイルスセンター、国立牧畜研究所、国立動物用生物学的製剤製造所、Ford-Dodge-Nova 製薬会社、メリダ空港検疫所、プログレソ港検疫所、ユカタン大学獣医学部、Mococho 山羊研究所、Merida家畜診療所、Randro San Rafail 種畜牧場、Cozumel 羊繁殖牧場、メキシコ自治大学獣医学部、Queretaro 家畜人工授精所、Purina S.A. 飼料工場

## (2) メキシコ家畜衛生センター技術協力実施協議調査団

### 1) 派遣の目的

事前調査団の報告を踏まえ、本計画の実施につきメキシコ側関係者と協議し、討議議事録に署名するとともに、暫定実施計画を策定する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	佐澤 弘士	農林水産省家畜衛生試験場製剤研究部長
団員	ワクチン製造	畠山 英夫	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部疫学研究室長
〃	ウイルス診断	原田 熊幸	千葉県血清研究所主任研究員
〃	協力企画	栗城俊之助	国際協力事業団農業開発協力部
〃	業務調整	橋本 敬次	国際協力事業団水産計画調査部特別嘱託

### 3) 派遣期間

1981年3月30日～1981年4月17日(19日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業水資源省家畜衛生局、家畜衛生センター

## (3) メキシコ家畜衛生センター計画計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

討議議事録の年次実行計画に基づき、本プロジェクトが効率的に推められるよう、現地調査の上、今後の運営方法等についてメキシコ側関係者と協議する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	清水悠紀臣	農林水産省家畜衛生試験場製剤研究部豚コレラ室長
団員	ワクチン製造	中川 秀次	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部主任検査官
〃	給 水 施 設	岡部 達二	(株)微生物化学研究所製剤業務部課長
〃	業 務 調 整	武田 雄八	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1982年2月8日～1982年2月26日(19日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業水資源省家畜衛生局、家畜衛生センター、イラブアト家畜衛生センター、動物病理研究所、市立狂犬病センター、大規模養豚場

## (4) メキシコ家畜衛生センター計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

昭和52年2月派遣された計画打合せチーム以後の事業活動及び施設整備状況を調査するとともに、今後の家畜衛生センターの運営計画並びに技術上の問題点等について、メキシコ側関係者及び専門家と協議を行なう。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	山本春弥	農林水産省家畜衛生試験場研究第3部長
団員	豚コレラ	川村 斉	農林水産省家畜衛生試験場製剤研究部豚コレラ研究室長

- 〃 疫 学 堤 孝正 農林水産省畜産局衛生課課長補佐
- 〃 業務調査 武田雄八 国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1983年1月19日～1983年2月3日(16日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業水資源省家畜衛生局、家畜衛生センター、国立動物用生物学的製剤製造所、チワワ動物病理研究所、チワワ牧畜組合、チワワ食肉処理場、チワワ種畜牧場、ロスモチェス動物病理研究所、クリアカン動物病理研究所、国立牧畜研究所、民間養豚場

## (5) メキシコ家畜衛生センター計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

3年目に入っている本計画について、R/Dに基づいて中間エバリュエーションを実施し、事業計画の見直しを行う。また、運営上、技術上の問題点につき、メキシコ国関係者及び日本人派遣専門家と協議して指導、助言を行い、今後のプロジェクトの効率的かつ円滑な運営に資する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	伊藤 全	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部長
団員	疫 学	河野 彬	〃 畜産局衛生課課長補佐
	ワクチン製造	古内 進	〃 家畜衛生試験場東北支場研究室長
	ウィルス病診断	井上 剛光	〃 動物医薬品検査所第一検査部主任検査官
	業務調整	栗城俊之助	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1983年11月9日～1983年11月26日(18日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業水資源省家畜衛生局、家畜衛生センター、国立動物用生物学的製剤製造所、国立牧畜研究所、民間養豚場

## (6) メキシコ家畜衛生センター計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

メキシコの経済事情悪化による、ローカル・コスト不足、購送資機材引取事情の悪化、カウンター・パートの民間からの引抜き、更に、豚コレラGPワクチン製造用マスター・シード・ウイルスの保管・管理責任の所在等運営上の問題点につき、メキシコ側関係者および専門家と協議し、必要な指導と助言を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼ワクチン製造・検定	牛見忠蔵	農林水産省家畜衛生試験場研究第四部長
団員	疫 学	吉田和正	農林水産省十勝種畜牧場衛生課長
〃	業 務 調 整	山縣正安	国際協力事業団畜産開発課々長代理

### 3) 派遣期間

1984年10月29日～1984年11月9日(12日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業水資源省家畜衛生局、家畜衛生センター、国立動物用生物学的製剤製造所、民間養豚場、肉牛肥育牧場

## (7) メキシコ家畜衛生センター計画評価調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクト終了予定時期(1986年5月31日)にあたり、これまでの活動実績を総合的に評価し、今後の対応について、メキシコ側と協議し、日本側及びメキシコ側に対し、今後の措置について提言する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	園田暁郎	農林水産省家畜衛生試験場企画連絡室普及科長
〃	ワクチン製造	古内 進	農林水産省家畜衛生試験場東北支場第一研究室長
〃	ウイルス病診断	中村成幸	農林水産省畜産局衛生課
〃	業 務 調 整	山縣正安	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1986年4月9日～1986年4月24日(16日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業水資源省家畜衛生局、家畜衛生センター、ワクチンメーカー（アンコール社）

### (8) メキシコ家畜衛生センター計画フォローアップ調査員

#### 1) 派遣の目的

フォローアップ期間中に実施した事業の評価と、安全かつ有効な豚コレラG P生ワクチンの進展のために、メキシコ側と協議する。

#### 2) 調査員

専門分野	氏名	所属
ワクチン製造	佐澤弘士	農林水産省家畜衛生試験場長
協力企画	橋本敬次	国際協力事業団農林水産計画調査部特別嘱託

#### 3) 派遣期間

1987年6月21日～1987年7月5日（15日間）

#### 4) 主な調査、訪問先

農業水資源省家畜衛生局、家畜衛生センター、国立動物用生物学的製剤製造所、ワクチンメーカー（アンコール社、ラビサ社）、地方診断所（ラ・ピエダ、グアナファト）、ポルシテック養豚組合

### (9) 中南米地域農林水産プロジェクト事後評価調査団

#### 1) 派遣の目的

終了後一定期間を経たパラグアイ林業開発訓練センター計画及びメキシコ家畜衛生センター計画についてその現状を調査することにより、今後我国が農林水産プロジェクトを実施する際の効率的、効果的实施に資するとともに、当該プロジェクトに対するアフターケアの必要性、および当該国における関連する分野での新たな協力の可能性についても考慮を加える。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所属
団長	総括	高橋 勉	農林水産省経済局国際部国際協力課長
団員	林業	岡部 廣二	農林水産省林野庁指導部造林保全課
〃	家畜衛生	斉藤 博	国際協力事業団国際協力専門員
〃	業務調整	後藤亮之助	国際協力事業団林業水産開発協力部林業開発課長

3) 派遣期間

1988年11月19日～1988年12月2日(14日間)

(注) メキシコ11月26日～12月2日

4) 主な調査、訪問先(メキシコ)

農業水資源省家畜衛生局、家畜衛生センター

## 6. パラグアイ家畜繁殖改善計画

R/D署名日 (R/D) 1982年12月 3日

協力期間 (R/D) 1982年12月 3日～1987年12月 2日

(F/U) 1987年12月 3日～1989年12月 2日

### 調査団派遣

(1) 1981年10月～11月 中南米農林業技術協力プロジェクトファインディング調査団

(2) 1982年11月～12月 実施協議調査団

(3) 1983年11月～12月 計画打合せ調査団

(4) 1984年10月 巡回指導調査団

(5) 1985年11月～12月 //

(6) 1987年 7月～ 8月 評価調査団



(1) 中南米農林業技術協力プロジェクトファイナディング調査団

1) 派遣の目的

パラグアイ政府からの技術協力の要請に対応し、国立アスンシオン大学獣医学部等への技術協力の可能性について調査する。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	香川 莊一	農林水産省大臣官房兼畜産局参事官
団員	人工授精	海老名六郎	農林水産省家畜衛生試験場企画連絡室企画科長
	〃 協力企画	山崎 雅弘	農林水産省畜産局家畜生産課改良係長
	〃 業務調整	栗城俊之助	国際協力事業団畜産開発課課長代理

3) 派遣期間

1981年10月20日～1981年11月4日(16日間)

4) 主な調査、訪問先

アスンシオン大学獣医学部、農牧省、農牧省家畜人工授精センター、農牧省バレリート牧場、国立家畜防疫研究所、San-Antonio 食肉加工場、Garani食肉加工場、イグアス日本人移住地、個人牧場

(2) パラグアイ家畜繁殖改善計画実施協議調査団

1) 派遣の目的

中南米農林業技術協力プロジェクトファイナディング調査(1981年度)の結果を踏まえ、技術協力内容につきパラグアイ側と協議し、合意がなされた場合、パラグアイ関係当局と実施協議チーム団長との間で討議々事録(R/D)を取りまとめる。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	香川 壯一	農林水産省大臣官房参事官兼畜産局
団員	家畜人工授精	海老名六郎	農林水産省家畜衛生試験場企画連絡室企画科長
	〃 協力政策	藤田 陽偉	農林水産省国際部国際協力課々長補佐
	〃 協力企画	猿橋 春夫	文部省学術国際局企画連絡課
	〃 業務調整	早瀬 隆昌	国際協力事業団畜産開発課
	〃 家畜栄養	※松岡 栄	帯広畜産大学畜産学部助教授

※家畜栄養分野については短期専門家として、11月20日～12月19日まで1ヵ月間派遣された。

### 3) 派遣期間

1982年11月20日～1982年12月7日(18日間)

### 4) 主な調査、訪問先

アスンシオン大学獣医学部、農牧省、農牧省家畜人工授精センター、国立家畜防疫研究所、農牧省バレリート牧場、イグアス日本人移住地、民間牧場

## (3) パラグアイ家畜繁殖改善計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

長期専門家が派遣され、活動を開始した本計画について、パラグアイ側関係者及び専門家チームと協議し、討議議事録及び暫定実施計画に基づく、具体的な実行計画(特に中間エバリュエーションまでの期間)、専門家派遣・研修員受入・機材供与計画の策定及び演示牧場の指定等を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	長岡正二	農林水産省福島種畜牧場場長
団員	人工授精	藤岡豊陽	農林水産省畜産局家畜生産課肉用牛係長
	家畜衛生	松山 茂	農林水産省畜産局家畜衛生課薬事室課長補佐
	家畜栄養	岡田光男	帯広畜産大学家畜生産科学肉畜肥育科教授
	業務調整	水野 隆	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1983年11月14日～1983年12月4日(21日間)

### 4) 主な調査、訪問先

アスンシオン大学獣医学部、農牧省家畜人工授精センター、国立家畜防疫研究所、農牧省バレリート牧場、食肉加工場、サシアイ牧場、ルイス・フェルナンディ牧場、レモニア牧場、サロナ牧場、ラグナ・カピタン牧場、カルメン牧場、セロ・レオン牧場

## (4) パラグアイ家畜繁殖改善計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

昭和58年11月に派遣された計画打合せチーム以後の事業活動および、施設整備状況を調査するとともに、今後の事業計画につき、運営上、技術上の問題点を把握し、パラグアイ側関係者および専門家と協議を行い、必要な指導と助言を行う。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼家畜生産	上田敬介	農林水産省畜産局参事官
団員	家畜栄養	藤田 裕	帯広畜産大学教授
〃	家畜衛生	吉田和正	農林水産省十勝種畜牧場衛生課長
〃	業務調整	山縣正安	国際協力事業団畜産開発課々長代理

## 3) 派遣期間

1984年10月19日～1984年10月31日(10日間)

## 4) 主な調査、訪問先

アスンシオン大学獣医学部、農牧省、農牧省家畜人工授精センター、国立家畜防疫研究所  
農牧省バレリート牧場、ポツ・アスール牧場、プエナ・ピスタ牧場

## (5) バラグアイ家畜繁殖改善計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

協力開始後3年間の事業活動実績を評価し、残り2年間の実行計画(重点協力事項)について「バ」側と協議するとともに、その他プロジェクトの円滑な遂行のために必要な関連事項についても打合せ協議を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼人工授精	上野 暉男	(社)中央畜産会技術参与
団員	家畜衛生	藤本 達男	農林水産省動物検疫所検疫部主任検疫官
〃	家畜栄養	松岡 栄	帯広畜産大学畜産学部助教授
〃	業務調整	銚之原節夫	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1985年11月22日～1985年12月5日(14日間)

### 4) 主な調査、訪問先

アスンシオン大学獣医学部、農牧省家畜人工授精センター、国立家畜防疫研究所、農牧省  
バレリート牧場、プエナ・ピスタ牧場、ポツ・アスール牧場

## (6) パラグアイ家畜繁殖改善計画評価調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクト終了予定時期にあたり、これまでの活動実績を総合的に評価し、今後の対応について、パラグアイ側と協議し日本側及びパラグアイ側に対し、今後の措置について提言する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	佐々木国利	農林水産省宮崎種畜牧場場長
団員	人工授精	山崎 雅弘	農林水産省福島種畜牧場家畜育種官
	家畜衛生	西野 重雄	農林水産省動物検疫所神戸支所大阪出張所主任検疫官
	家畜栄養	藤田 裕	帯広畜産大学家畜生産科学科家畜栄養学教授
	業務調整	山縣 正安	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産計画課 課長代理

### 3) 派遣期間

1987年7月19日～1987年8月3日(16日間)

### 4) 主な調査、訪問先

アスンシオン大学獣医学部、農牧省、農牧省家畜人工授精センター、国立家畜防疫研究所、イグアス日本人移住地、農牧省バレリート牧場、プエナ・ビスタ牧場、ククオ牧場、サンファンバウチスタ獣医補助学校、リンコン牧場、カヴィラウ牧場

## 7. インドネシア動物医薬品検定計画

R/D署名日 (R/D) 1984年 2月11日  
(延長) 1989年 2月18日

協力期間 (R/D) 1984年 4月 1日～1989年 3月31日  
(延長) 1989年 4月 1日～1991年 3月31日

### 調査団派遣

- (1) 1982年11月 インドネシア農林業協力プロジェクトファインディング調査団
- (2) 1983年 3月～ 4月 インドネシア動物医薬品検定技術協力計画打合せ調査団
- (3) 1983年 長期調査
- (4) 1984年 2月 実施協議調査団
- (5) 1985年 1月～ 2月 計画打合せ調査団
- (6) 1986年 1月～ 2月 巡回指導調査団
- (7) 1987年 2月～ 3月 //
- (8) 1988年10月～11月 評価調査団
- (9) 1989年 6月 巡回指導調査団

## (1) インドネシア農林業協力プロジェクトファイナディング調査団

### 1) 派遣の目的

1982年にインドネシア政府より要請のあった動物医薬品検査所の新設並びにその運営に係る技術協力について、その要請内容の確認、プロジェクト技術協力の可能性を調査する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	畦地速見	農林水産省動物医薬品検査所所長
団員	医薬品検定	村松昌武	農林水産省畜産局衛生課家畜衛生指導官
	〃 業務調整	宮下信夫	国際協力事業団農林水産計画調査部 農林水産技術課課長代理

### 3) 派遣期間

1982年11月14日～1982年11月23日(10日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、家畜衛生研究所、動物生物製剤センター(スラバヤ)、民間製薬会社

## (2) インドネシア動物医薬品検定技術協力計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクト・ファイナディングチームの報告をもとに、プロジェクト方式技術協力の基本的枠組(基本構想)等についてインドネシア関係者と協議する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	動物医薬品検定	村松昌武	農林水産省畜産局衛生課家畜衛生指導官
団員	事業計画	小野英男	国際協力事業団畜産開発課長

### 3) 派遣期間

1983年3月27日～1983年4月9日(14日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、動物生物製剤センター(スラバヤ)、生物医学センター(ジャカルタ)、動物用製剤会社、プロジェクトサイト予定地(セルボン)

### (3) インドネシア動物医薬品検定計画長期調査員

#### 1) 派遣の目的

インドネシア国内における動物医薬品流通の実態を把握し、併せてプロジェクトに関する基本計画、実施体制等についてインドネシア側関係者と協議を行う。

#### 2) 調査調査員

- ①村松昌武 農林水産省畜産局衛生課家畜衛生指導官
- ②小池生夫 国際協力事業団特別嘱託

#### 3) 派遣期間

- ①1983年9月30日～1983年10月29日(30日間)
- ②1983年9月30日～1983年12月13日(75日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、家畜衛生試験場、生物学的製剤センター(スラバヤ)、ボゴール大学、ワクチン輸入メーカー、ワクチン取扱メーカー

### (4) インドネシア動物医薬品検定計画実施協議調査団

#### 1) 派遣の目的

計画打合せ調査及び長期調査の結果を踏まえ、本プロジェクトの基本計画、具体的な実施計画についてインドネシア側関係者と協議し、討議議事録及び年次別実行計画としてとりまとめ署名をとり交す。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	沢田 賢	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部長
団員	生物製剤・抗生物質	田中 正三	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部 無菌検査室長
〃	協力企画	鶴田 和男	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力官
〃	実験動物	倉田 一明	社団法人中央畜産会嘱託専門技師
〃	業務調整	銚之原節男	国際協力事業団畜産開発課

#### 3) 派遣期間

1984年2月1日～1984年2月15日(15日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、ジャカルタ市家畜保健衛生所、プロジェクトサイト予定地、家畜衛生試験場、畜産試験場、動物生物学的製剤製造センター

#### (5) インドネシア動物医薬品検定計画計画打合せ調査団

##### 1) 派遣の目的

R/Dに示された技術協力計画の大枠に沿って、年次別実行計画の進捗度について調査・確認するとともに、専門家の派遣及び研修員の受け入れ等技術協力の細部計画、検査所の運営に関連した諸条件の整備状況の調査及び協議する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	田中 正三	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部長
団員	動物医薬品	野川 浩正	農林水産省動物医薬品検査所検査第二部抗生物質検査室長
	〃 業務調整	鈴之原節夫	国際協力事業団畜産開発課

##### 3) 派遣期間

1985年1月20日～1985年2月2日(14日間)

##### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、プロジェクトサイト予定地、家畜衛生試験場、デンバサー家畜衛生センター、動物医薬品販売店、家禽農場

#### (6) インドネシア動物医薬品検定計画巡回指導調査団

##### 1) 派遣の目的

動物用医薬品の国家検定の開始に関する時期、対象範囲、実務の方法等を中心に、同時に専門家派遣等を含む今後の技術協力計画の細部を「イ」側と協議するとともに、助言及び指導を行う。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼動物医薬品	緒方 宗雄	国際協力事業団国際協力総合研修所 国際協力専門員
団員	家畜衛生	石丸 雅敏	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部 豚コレラ予防液検査室



〃 業務調整 銜之原節夫 国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1986年1月27日～1986年2月7日(12日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、動物医薬品検査所

## (7) インドネシア動物医薬品検定計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を調査し、国家検定の具体的な対象品目、試験項目及び検査方法等を検討し、検定基準を含むこれらの技術的、制度的問題について専門家及びイ国関係当局に対し指導、助言を行うとともに、今後の技術協力計画(専門家派遣、研修員受入れ、機材供与)について協議する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	河野 彬	農林水産省畜産局衛生課薬事室長
団員	製剤検定	佐々木英治	農林水産省動物医薬品検査所検査第1部ウイルス第2検査室長
	〃 薬事行政	田村 豊	農林水産省畜産局衛生課薬事室
	〃 業務調整	青木 正明	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1987年2月22日～1987年3月4日(11日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、動物医薬品検査所、西ジャワ州畜産局、レンバン家畜人工授精センター、動物用製薬会社

## (8) インドネシア動物医薬品検定計画評価調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの終了年度に当たり、インドネシア側関係者と合同で、これまでのプロジェクトの活動実績を計画段階から総合的に評価するとともに、今後の対応について先方関係者と協議する。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	河野 彬	農林水産省動物医薬品検査所長
団員	抗生物質	野川浩正	農林水産省動物医薬品検査所検査第二部 抗生物質製剤検査室長
〃	生物製剤	澤田拓士	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部主任研究官
〃	薬事行政	池田一樹	農林水産省畜産局衛生課国際事務第二係長
〃	業務調整	勝田幸秀	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産計画課

## 3) 派遣期間

1988年10月24日～1988年11月5日(13日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、動物医薬品検査所、生物製剤センター(スラバヤ)、シンゴサリ家畜人工授精センター

## (9) インドネシア動物医薬品検定計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

延長された協力期間の年次別暫定実施計画を協議し、策定するとともに、プロジェクト運営上の問題点等について先方関係者及び日本人専門家に対し、必要な助言・指導を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼生物製剤	田中正三	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部長
団員	抗生物質	高橋敏雄	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部
〃	実験動物	梅沢英彦	財団法人日本生物科学研究所小淵沢支所長代理
〃	業務調整	松尾昌一	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1989年6月19日～1989年6月29日(11日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、動物医薬品検査所、生物製剤会社(バンドン)

## 8. ザンビア大学獣医学部技術協力計画

R/D署名日 (R/D) 1985年 1月22日  
(延長) 1990年12月28日

協力期間 (R/D) 1985年 1月22日～1990年 1月21日  
(延長) 1990年 1月22日～1992年 7月21日

### 調査団派遣

- (1) 1982年10月～11月 アフリカ農林業協力プロジェクト・ファインディング調査団
- (2) 1984年 4月 事前調査団
- (3) 1984年10月～11月 長期調査員
- (4) 1985年 1月 実施協議調査団
- (5) 1986年 1月 計画打合せ調査団
- (6) 1987年 1月 巡回指導調査団
- (7) 1987年12月 //
- (8) 1988年 7月～ 8月 //
- (9) 1989年 8月 評価調査団

## (1) アフリカ農林業協力プロジェクトファインディング調査団

### 1) 派遣の目的

東アフリカのケニア国からは、養蚕及びマカダミアナッツの技術協力の要請が、ザンビア国からは、ザンビア大学獣医学部の建設に係る無償資金及び技術協力の要請が日本国へなされたのを背景として、要請の背景、ニーズ、及び計画の詳細を把握し、今後これらの国に対して我国が技術協力を実施する際の方向と可能性の検討に資する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	山崎 隆可	国際協力事業団農林水産計画調査部長
団員	協力政策	粗 信二	外務省経済協力局技術協力第2課事務官
	〃 教育協力	北尾 善信	文部省学術国際局企画連絡課事務官
	〃 農業協力	山本 昭夫	国際協力事業団青年海外協力隊元隊員
	〃 資金協力	松岡 和久	国際協力事業団無償資金協力部基本設計課課長代理
	〃 業務調整	栗城俊之助	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1982年10月26日～1982年11月10日(16日間)

### 4) 主な調査、訪問先(ザンビア)

高等教育局、ザンビア大学、農業省計画局、在ルサカFAO事務所、中央家畜衛生研究所

## (2) ザンビア大学獣医学部技術協力計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

ザンビア大学獣医学部関係者と協議を行い、当該関係者の同学部の運営に関する考え方及び今後の計画等を調査すると共に、日本側の同獣医学部に対する技術協力の方向性及び協力範囲を検討する。又、国連食糧農業機関(FAO)の同獣医学部に対する協力に関する考え方を聴取する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	藤本 胖	北海道大学獣医学部教授
団員	協力政策	浜田雄二	外務省経済協力局技術協力第二課
	〃 協力企画	柴崎明博	文部省大学局技術教育課
	〃 家畜疾病	熊谷哲夫	東京農工大学農学部教授
	〃 獣医教育	友田 勇	東京大学農学部教授

〃 業務調整 須藤和男 国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産技術課

### 3) 派遣期間

1984年4月11日～1984年4月28日(18日間)

### 4) 主な調査、訪問先

ザンビア大学(本部、医学部付属病院)、獣医ツエツエ防除局、ザンビア家畜衛生学院、マサブカ家畜人工授精所、FAOルサカ事務所、国立野生動物管理局、民間牧場、養豚場、牛と殺場、豚肉加工場、FAO本部(ローマ)

## (3) ザンビア大学獣医学部技術協力長期調査員

### 1) 派遣の目的

事前調査団の報告に基づき、本プロジェクト技術協力の基本的枠組み等について必要な調査を行ない、あわせてザンビア大学その他の関係機関と協議する。また、FAO、ジンバブエ大学関係者と今後の協力計画について必要な調整を行なう。

### 2) 長期調査員

金川弘司(獣医教育) 北海道大学獣医学部教授  
緒方宗雄(協力計画) 国際協力事業団国際協力専門員

### 3) 派遣期間

1984年10月23日～1984年11月21日(30日間)

### 4) 主な調査、訪問先

ザンビア大学(本部、獣医学部建設現場、医学部)  
農業水資源開発省獣医局、ザンビア家畜衛生院、マサブカ家畜疾病診断センター、家畜衛生研究所、牛と殺場、豚肉加工場、民間牧場  
(ジンバブエ) ジンバブエ大学獣医学部  
(ローマ) FAO本部

## (4) ザンビア大学獣医学部技術協力計画実施協議調査団

### 1) 派遣の目的

事前調査、長期調査の結果に基づき、ザンビア政府(ザンビア大学も含む)関係者と技術協力計画について協議を行い、「討議議事録」に署名する。また必要により、補足的な調査及び確認を行う。

## 2) 調査団員の構成

担当	氏名	所 属
団長 総 括	尾形 學	麻布大学獣医学部教授
団員 協力企画	安岡邦昭	北海道大学庶務部国際主幹
〃 獣医教育 (家畜病理)	藤本 胖	北海道大学獣医学部教授
〃 獣医教育 (家畜疾病)	熊谷哲夫	東京農工大学農学部教授
〃 技術協力	小野英男	国際協力事業団畜産開発課長

## 3) 派遣期間

1985年1月13日～1985年1月28日 (16日間)

## 4) 主な調査、訪問先

ザンビア大学

農業水資源開発省獣医ツエツエ防除局、マサブカ家畜衛生院中央獣医研究所、(ケニア)  
ナイロビ大学獣医学部、国際獣疫研究所 (ILRAD)、ジョモ・ケニヤッタ農工大学

## (5) ザンビア大学獣医学部技術協力計画計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況、問題点を把握し、ザンビア大学関係者と①ザンビア大学の獣医教育計画、教官採用計画等の確認②協力期間内の協力計画に関する協議③61年度実行計画に関する協議④他の研究機関との研究協力計画に関する協議⑤家畜疾病予防計画に関連する獣医学普及計画に関する協議等を行う。

### 2) 調査団員の構成

担当	氏名	所 属
団長 総 括	尾形 學	麻布大学獣医学部教授
団員 獣医教育	金川弘司	北海道大学獣医学部教授
〃 業務調整	山縣正安	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1986年1月17日～1986年1月29日 (13日間)

### 4) 主な調査、訪問先

ザンビア大学 (本部、獣医学部) 獣医研究機関

## (6) ザンビア大学獣医学部技術協力計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を調査し、プロジェクト実施上の問題点についてザンビア側関係者、日本人専門家と協議し必要な助言・指導を行うとともに、今後の活動計画を協議する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	熊谷哲夫	東京農工大学農学部教授
団員	獣医教育	工藤宣夫	北海道大学獣医学部教授
	〃	獣医教育	竹内 啓 東京大学農学部教授
	〃	業務調整	向井一朗 国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1987年1月11日～1987年1月28日(18日間)

### 4) 主な調査、訪問先

ザンビア大学(本部、獣医学部)、マサブカ家畜衛生院、中央獣医研究所、獣医ツエツエ防除局

## (7) ザンビア大学獣医学部技術協力計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を調査し、プロジェクト実施上の問題点について現地関係者と対応方針を協議し、併せて今後の活動計画を策定する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	金川 弘司	北海道大学獣医学部教授
団員	獣医教育	堤 可厚	国際協力事業団農林水産計画調査部特別嘱託
	〃	協力企画	曾我 渡 文部省学術国際局研究助成課 研究協力室研究協力第一係長
	〃	業務調整	石井羊次郎 国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1987年12月16日～1987年12月29日(14日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

ザンビア大学（本部、獣医学部）、マサブカ地方の農場、ルサカ近郊牧場

### (8) ザンビア大学獣医学部技術協力計画巡回指導調査団

#### 1) 派遣の目的

現在までの実績を把握し、現地専門家チームにプロジェクト運営及び技術面に関する指導・助言を与え、ザンビア側関係者を協議し、暫定実施計画の見直しを行うとともに、学部全体の中長期整備計画について関係者と協議を行い、今後の日本側の協力の方向性と内容について検討する。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	竹内 啓	東京大学農学部教授
団員	獣医教育	大島 寛一	岩手大学農学部教授
	〃 寄生虫学	奥 祐三郎	北海道大学獣医学部助手
	〃 協力企画	山縣 正安	国際協力事業団畜産開発課課長

#### 3) 派遣期間

1988年7月31日～1988年8月17日（18日間）

#### 4) 主な調査、訪問先

ザンビア大学（本部、獣医学部）、在ルサカ British Council、  
（イギリス） British Council本部

### (9) ザンビア大学獣医学部技術協力計画評価調査団

#### 1) 派遣の目的

協力期間の最終年度に当たり、本計画のこれまでの活動実績、協力の成果等を総合的に評価するとともに、R/D期間終了後の対応方針について協議する。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼獣医学教育	金川弘司	北海道大学獣医学部教授
団員	獣医学研究・普及	森 裕司	東京農工大学獣医学部助教授
	〃 教育協力	竹島譽俊	北海道大学国際交流課課長補佐
	〃 青年海外協力隊	中垣長陸	国際協力事業団青年海外協力隊事務局 派遣二課課長代理



〃 計 画 評 価 草野孝久 国際協力事業団畜産開発課

3) 派遣期間

1989年8月6日～1989年8月22日(17日間)

4) 主な調査、訪問先

ザンビア大学(本部、獣医学部) 高等教育省、在ルサカ British Council、獣医ツエツエ  
局中央獣医学研究所、国家科学研究評議会

9. 中国肉類食品総合研究センター計画

R/D署名日 (R/D) 1985年 4月10日

協力期間 (R/D) 1985年 4月10日～1990年 4月 9日

調査団派遣

- |                   |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| ( 1) 1983年 6月     | 中国農林水産業技術協力プロジェクト・ファイナディング調査団 |
| ( 2) 1984年 2月     | 事前調査団                         |
| ( 3) 1984年 9月～11月 | 長期調査員                         |
| ( 4) 1985年 4月     | 実施協議調査団                       |
| ( 5) 1985年10月     | 計画打合せ調査団                      |
| ( 6) 1986年12月     | 巡回指導調査団                       |
| ( 7) 1987年11月～12月 | ”                             |
| ( 8) 1988年10月     | ”                             |

## (1) 中国農林水産業技術協力プロジェクト・ファインディング調査団

### 1) 派遣の目的

協力要請のあった5案件に対する協力実施の可能性とプライオリティーを判断する材料を得るため、中国の農林水産業の現状と課題、国家開発計画、農林水産関係行政機構等背景となる情報・資料を可能な限り収集し、中央政府関係部局から日中農業技術協力に対する先方の考え方、希望ならびに協力要請案件の背景、内容等について聴取し意見交換を行うと共にプロジェクトサイトを訪ねて現地関係機関の現状、実施体制、派遣専門家の生活環境等について調査する。

### 2) 調査団員の構成

担当	氏名	所 属
団長	山極栄司	農林水産省大臣官房技術総括審議官
団員 総 括	浦部和好	外務省経済協力局経済協力第二課長
〃 協力企画	土屋晴男	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力室長
〃 協力政策	池田他人	外務省経済協力局技術協力第二課課長補佐
〃 農業土木	池田 実	農林水産省構造改善局設計課海外土地改良技術官
〃 林 業	古牧敏正	農林水産省林野庁指導部研究普及課首席研究企画官
〃 水 産	九鬼 望	農林水産省水産庁漁政部水産流通課水産加工対策室長
〃 畜 産	上田敬介	農林水産省畜産局食肉鶏卵課課長補佐
〃 協力管理兼業務調査	上杉 健	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産計画課課長

### 3) 派遣期間

1983年6月19日～1983年6月29日(11日間)

### 4) 主な調査、訪問先

商業部、農牧漁業部、林業部、水利電力部、黒竜江省、上海市

## (2) 中国肉類食品総合研究センター計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

我が国に要請されている本センター設立に係る無償資金協力及びプロジェクト技術協力に関し、計画の妥当性、中国における肉類・卵類の流通・加工の現状、将来方向を調査し、我が国の行うセンター建設に係る協力及び技術協力の枠組を明らかにする。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	菊地雅夫	農林水産省経済局国際部国際協力課海外技術協力室長
団員	協力政策	伊藤正人	外務省経済協力局技術協力第二課課長補佐
〃	無償資金協力	福田晴耕	外務省経済協力局経済協力第二課課長補佐
〃	協力企画	小野英男	国際協力事業団農業開発協力部畜産開発課長
〃	流 通	江口和夫	中央畜産会技術参与
〃	加工技術	吉武 充	農林水産省畜産試験場加工部畜産物規格鑑定研究室長
〃	研究施設計画	中井博康	農林水産省畜産試験場加工部第二研究室長
〃	研究計画	竹下 潔	農林水産省農林水産技術会議事務局企画調査課研究調査官
〃	計画監理	今津 武	国際協力事業団無償資金協力部基本設計課課長代理
〃	業務調整	田尻照久	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産技術課

## 3) 派遣期間

1984年2月7日～1984年2月19日(13日間)

## 4) 主な調査、訪問先

商業部、北京市第二商業局、肉類総合加工廠、西南郊食品冷凍廠、北京市肉類連合加工廠、郊外経済貿易部、センター設立予定地

## (3) 中国肉類食品総合研究センター長期調査員

### 1) 派遣の目的

事前調査の結果を踏まえ、技術協力の基本的枠組、基本計画等技术協力に必要な事前調査の補完的調査を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
流 通	吉武 充	畜産試験場加工部畜産物規格鑑定室長	
加 工	高坂和久	(社)日本食肉加工協会検査所長	
技術協力	二瓶義宗	国際協力事業団畜産開発課長代理	

### 3) 派遣期間

1984年9月18日～1984年11月17日(2か月間)

### 4) 主な調査、訪問先

商業部、軽工業部食品局、北京市第二商業局、北京市食品公司、北京市食品研究所、北京

市肉類連合加工廠、北京市農業部畜牧局、天津市第二商業局、天津市肉類連合加工廠、天津市食品研究所、江蘇省食品公司、揚州肉類連合加工廠、汾州市食品公司、上海市第二商業局、上海市食品公司肉類食品廠、浙江省商業庁、杭州肉類連合加工廠、洛陽行政公署、河南省商業庁

(4) 中国肉類食品総合研究センター計画実施協議調査団

1) 派遣の目的

本プロジェクトの基本計画及び暫定実施計画について中国側関係者と協議し、討議議事録の署名及び暫定実施計画を策定する。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	菊地雅夫	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力室長
団員	協力政策	貝谷俊男	外務省経済協力局技術協力課外務事務官
	流 通	吉武 充	農林水産省畜産試験場加工部畜産物規格鑑定研究室長
	加 工	菱沼 毅	農林水産省畜産局食肉鶏卵課課長補佐
	業務調整	二瓶義宗	国際協力事業団畜産開発課課長代理

3) 派遣期間

1985年4月4日～1985年4月11日(8日間)

4) 主な調査、訪問先

商業部、北京市第二商業局、センター設立予定地

(5) 中国肉類食品総合研究センター計画計画打合せ調査団

1) 派遣の目的

1985年4月10日のR/D署名日から開始された本プロジェクトは、施設が建設中であり、本格的な技術協力は第2年次から開始されることとなっており、第2年次以降の年次別事業計画及び実行計画につきプロジェクト関係者との協議及び現地調査に基づいて策定する。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	矢野信禮	農林水産省畜産試験場加工部長
団員	食肉基礎	吉武 充	農林水産省畜産試験場加工部畜産物規格鑑定研究室長
	食肉流通	石谷孝佑	農林水産省食品総合研究所食品流通部食品包装研究室長

- 〃 食肉加工 高坂和久 (社) 日本食肉加工協会検査所長
- 〃 業務調整 二瓶義宗 国際協力事業団畜産開発課長代理

### 3) 派遣期間

1985年10月17日～1985年10月31日(15日間)

### 4) 主な調査、訪問先

商業部、センター建設現場、西安市場

## (6) 中国肉類食品総合研究センター計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの円滑な遂行のため、技術的問題点を中心に調査、解明し先方政府関係者及び日本人専門家に対し指導、助言を行うとともに、次年度計画(専門家派遣、研修員受入、機材供与等)の概要について協議を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	吉竹 充	農林水産省畜産試験場加工部長
団員	流 通	平田 孝	農林水産省食品総合研究所食品流通部主任研究官
	〃 加 工	矢野晋三	(社) 日本食肉加工協会検査所長
	〃 業務調整	岩倉 栄	国際協力事業団畜産開発課長代理

### 3) 派遣期間

1986年12月9日～1986年12月17日(9日間)

### 4) 主な調査、訪問先

商業部、肉類食品総合研究センター、北京市内食肉加工場

## (7) 中国肉類食品総合研究センター計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの実施状況を調査し、今後の実行計画について、中国政府関係者及び日本人専門家と協議を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	菊地武明	農林水産省草地試験場放牧利用部長

団員 流 通 石谷孝佑 農林水産省食品総合研究所食品流通部室長  
 " 加 工 瀬川正治 日本ハム・ソーセージ工業協同組合業務部長  
 " 業務調整 岩倉 栄 国際協力事業団畜産開発課長代理

3) 派遣期間

1987年11月24日～1987年12月4日(11日間)

4) 主な調査、訪問先

商業部、肉類食品総合研究センター

(8) 中国肉類食品総合研究センター巡回指導調査団

1) 派遣の目的

次年度を最終年度にひかえ、残された期間に解決すべき課題は何か、5ヶ年間の協力の着地点はどこか等を検討し、今後の協力関係を中国側と協議する。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼基礎研究	吉武 充	農林水産省畜産試験場加工部長
団員	協力企画	秦 二郎	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力官
"	食肉流通	野田富雄	農林水産省畜産局食肉鶏卵課食肉流通係長
"	食肉加工	馬場弘行	群馬畜産加工販売農業協同組合連合会 高崎ハム品質管理部部長代理
"	業務調整	大堂志郎	国際協力事業団畜産開発課課長代理

3) 派遣期間

1988年10月19日～1988年10月28日(10日間)

4) 主な調査、訪問先

商業部、肉類食品総合研究センター、宗文門食品市場、紅橋食品市場、肉聯省加工処理場

10. インドネシア家畜人工授精センター強化計画

R/D署名日 (R/D) 1986年 2月13日

協力期間 (R/D) 1986年 4月 1日～1991年 3月31日

調査団派遣

- ( 1) 1984年10月～11月 インドネシア共和国農業協力プロジェクトコンタクト調査団
- ( 2) 1985年 3月～ 4月 アジア畜産・家畜衛生巡回指導調査団
- ( 3) 1985年 9月～10月 事前調査団
- ( 4) 1985年12月 長期調査員
- ( 5) 1986年 2月 実施協議調査団
- ( 6) 1986年12月 計画打合せ調査団
- ( 7) 1987年11月 巡回指導調査団
- ( 8) 1988年 9月～10月 ”
- ( 9) 1989年10月 ”



## (1) インドネシア共和国農業協力プロジェクトコンタクト調査団

### 1) 派遣の目的

食糧作物開発センター（FCADC）プロジェクトに対するインドネシア側の調整の状況及び今後の方向についての最終確認を得るとともに、家畜人工授精センター強化及び適性農業機械技術開発センターの2案件については、先方関係機関と協議、現地調査を行なって協力の背景および内容を確認し、両件に関する情報の収集を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	楠木 功	国際協力事業団農林水産計画調査部次長
団員	協力企画	渋市 徹	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力官
	〃 農業機械	戸田 政則	農林水産省農蚕園芸局肥料機械課農蚕園芸専門官
	〃 畜 産	遠藤 幸男	農林水産省岩手種畜牧場検定課長
	〃 業務調整	川路賢一郎	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産技術課

### 3) 派遣期間

1984年10月22日～1984年11月4日（14日間）

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、東ジャワ州畜産局、シゴサリ家畜人工授精センター、村落協同組合（バツ、プジョン、ジョンバン）、西ジャワ州畜産局、レンバン家畜人工授精センター、ミルク工場、乳牛飼養農家

## (2) アジア（インドネシア、タイ）畜産・家畜衛生巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

インドネシア及びタイにおいて現在実施中ないしは最近終了したプロジェクト及びその関連施設を巡回し、今後の技術援助の円滑な推進に必要な資料を得る。併せて、家畜生産分野における技術協力の可能性を調査する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	阿部 猛夫	(社)家畜改良事業団顧問
団員	家畜生産	上野 暉男	(財)日本軽種馬登録協会専務理事
	〃 (注) 業務調整	鉾之原節夫	国際協力事業団畜産開発課
			(注) 同時期に派遣されたアジア畜産・家畜衛生機材維持管理調査団の業務調整として派遣

### 3) 派遣期間

1985年3月31日～1985年4月13日(14日間)

### 4) 主な調査、訪問先(インドネシア)

農業省畜産総局、動物医薬品検査所、チアウイ畜産研究所、レンバン家畜人工授精センター、西ジャワ州畜産局、メダンDIC

## (3) インドネシア家畜人工授精センター強化計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

インドネシア側畜産関係者とシンゴサリ人工授精センター強化計画に関する考え方及び今後の方向、協力に必要なとされる技術、機材範囲等について協議を行い、我国の同プロジェクトに対する対処方法、方向及び協力範囲を検討する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	福山見孝	農林水産省新冠種畜牧場長
団員	家 畜 育 種	遠藤幸男	農林水産省岩手種畜牧場検定課長
〃	協 力 企 画	引地和明	農林水産省畜産局家畜生産課
〃	家畜繁殖/業務調整	齊藤 博	国際協力事業団国際協力専門員

### 3) 派遣期間

1985年9月25日～1985年10月5日(11日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、東ジャワ州畜産局、シンゴサリ家畜人工授精センター、酪農組合(ブジョン、ルマジャン、レンバン)、西ジャワ州畜産局、レンバン家畜人工授精センター、飼料会社、乳牛飼養農家

## (4) インドネシア家畜人工授精センター強化計画長期調査員

### 1) 派遣の目的

昭和60年9月より派遣された本件プロジェクト事前調査団の調査結果及び後代検定の分野についてインドネシア側と合意した協力計画の基本的枠組に基づき、後代検定に係る手法開発等のプロジェクト事業計画の具体化をはかるためセンターのある東ジャワ州の酪農家を中心とした現地調査を実施する。さらにこの結果をもとに「イ」側と協議のうえ、後代検定に係る計画案を作成する。

## 2) 調査調査員

遠藤幸男 農林水産省岩手種畜牧場検定課長

## 3) 派遣期間

1985年12月3日～1985年12月22日(20日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、東ジャワ州畜産局、スラバヤ家畜人工授精センター、酪農組合・農家  
(ジョンバン、ノンコジャジャール、バンドン、レンバン、ゲタサン)

## (5) インドネシア家畜人工授精センター強化計画実施協議調査団

### 1) 派遣の目的

事前調査、長期調査の結果を踏まえ、インドネシア側関係者とプロジェクトの基本計画を策定し、討議議事録としてとりまとめるとともに、暫定実施計画を策定する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	緒方宗雄	国際協力事業団国際協力総合研修所国際協力専門員
団員	協力企画	田谷 明	農林水産省畜産局畜産経営課課長補佐
	業務調整	岩倉 栄	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1986年2月6日～1986年2月17日(12日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、東ジャワ州畜産局、シンゴサリ家畜人工授精センター、酪農組合・農家  
(ノンコジャジャール)、Aneka Gas 社

## (6) インドネシア家畜人工授精センター強化計画計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

インドネシア側関係者及び日本人専門家と協議し、討議議事録及び暫定実施計画に基づき、協力期間前半(3年間)の詳細実行計画を策定するとともに、次年度の専門家派遣計画、研修員受入計画、機材供与計画を協議・検討する。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	植松雄洞	農林水産省岩手種畜牧場場長
団員	家 畜 育 種	赤松勇二	農林水産省畜産局家畜生産課課長補佐
	家畜人工授精	斉藤新一	(社)家畜改良事業団検査第一部調査課長
	業 務 調 整	青木正明	国際協力事業団畜産開発課

## 3) 派遣期間

1986年12月8日～1986年12月18日(11日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、東ジャワ州畜産局、シンゴサリ家畜人工授精所

## (7) インドネシア家畜人工授精センター強化計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を調査し、プロジェクト実施上の問題点等について検討し、インドネシア側関係者及び日本人専門家に必要な助言・指導を行うとともに、次年度実行計画について協議・検討する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	赤井美文	農林水産省新冠種畜牧場場長
団員	家畜育種	遠藤幸男	農林水産省岩手種畜牧場検定課長
	家畜繁殖	吉田 稔	農林水産省十勝種畜牧場衛生課長
	業務調整	青木正明	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1987年11月18日～1987年11月29日(12日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、東ジャワ州畜産局、シンゴサリ家畜人工授精センター

## (8) インドネシア家畜人工授精センター強化計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況及び現状を調査し、プロジェクト実施上の諸問題の検討を行い、イ側関係者及び日本人専門家に対し必要な指導、助言を行うとともに、プロジェクト後半

(64年度及び65年度)の実行計画についてイ側関係者及び日本人専門家と検討、協議を行う。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼家畜育種	阿部猛夫	(社)家畜改良事業団顧問
団員	飼養管理兼人工授精	佐藤忠昭	農林水産省畜産局家畜生産課課長補佐
〃	繁殖障害	鈴木一男	農林水産省鳥取種畜牧場家畜人工妊娠課長
〃	業務調整	青木正明	国際協力事業団畜産開発課

## 3) 派遣期間

1988年9月26日～1988年10月9日(14日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、シンゴサリ家畜人工授精センター、東ジャワ州畜産局、ノンコジャジャル酪農組合

## (9) インドネシア家畜人工授精センター強化計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況をプリエバリユエーション的に調査し、プロジェクト実施上の技術的諸問題等の検討を行い、先方関係者及び日本人専門家と次年度の実行計画について協議するとともに、必要な助言・指導を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括	宮本伸昭	農林水産省新冠種畜牧場場長
団員	家畜育種	山崎雅弘	農林水産省福島種畜牧場育種官
〃	飼養管理兼繁殖障害	島森宏夫	農林水産省畜産局畜政課技術協力係長
	業務調整	吉田敏男	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1989年10月16日～1989年10月29日(14日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省畜産総局、東ジャワ州畜産局、シンゴサリ家畜人工授精センター

11. マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画

R/D署名日 (R/D) 1986年 4月17日

協力期間 (R/D) 1986年 4月17日～1991年 4月16日

調査団派遣

- ( 1) 1984年11月～12月 コンタクト調査団
- ( 2) 1985年 7月 事前調査団
- ( 3) 1985年10月～12月 長期調査員
- ( 4) 1986年 4月 実施協議調査団
- ( 5) 1987年 3月 計画打合せ調査団
- ( 6) 1988年 3月 巡回指導調査団
- ( 7) 1989年 2月～ 3月 ”
- ( 8) 1990年 1月 ”

## (1) マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練センター計画コンタクト調査団

### 1) 派遣の目的

1982年の第5回日・アセアン・フォーラムの場で要請がなされたアセアン家禽病研究・訓練センター計画に関し、今次日・アセアン・フォーラムの結果を踏まえ、協力要請の背景、協力内容の確認等、コンタクト的調査を実施し、結果をとりまとめ、今後の対応方針検討のための基礎資料に資する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団 長	総 括	谷崎泰明	外務省経済協力局技術協力課主席事務官
副団長	家禽病診断	池田澄雄	農林水産省動物医薬品検査所検査第一部鶏病製剤 第2検査室長
団 員	協力企画	森山浩光	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力官
〃	家禽病研究	湯浅 襄	農林水産省家畜衛生試験場鶏病支場第3研究室長
〃	業務調整	斉藤 博	国際協力事業団農林水産計画調査部特別嘱託

### 3) 派遣期間

1984年11月25日～1984年12月5日(11日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省獣医局、マレーシア国アセアン事務局、獣医学研究所、ベラク州立牧場、マレーシア農科大学、クアラカンサー獣医所、農家

## (2) マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

コンタクト調査団の調査結果を踏まえ宿主国であるマレーシアと協力の枠組みに係る協議、無償資金協力に必要な事前調査等を行い、もって本計画の円滑な実施協議並びに無償資金協力基本設計調査につなげる。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	真鍋 寛	外務省無償資金協力課外務事務官
団員	協力政策	沼田正俊	外務省技術協力課外務事務官
〃	協力企画	金沢弘行	農林水産省国際協力課海外技術協力官
〃	家禽病研究	日原 宏	〃 家畜衛生試験場鶏病支場第二研究室長
〃	家禽病診断	中川秀次	〃 畜産局衛生課薬事室課長補佐

” 無償・計画管理 寺西義英 国際協力事業団無償資金協力計画調査部基本設計調査  
1 課

” 業務調整 石橋隆介 国際協力事業団農林水産技術課課長代理

### 3) 派遣期間

1985年7月16日～1985年7月26日(1.1日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省獣医局、国立獣医学研究所、養鶏農家

## (3) マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画長期調査員

### 1) 派遣の目的

本計画の目的が、アセアン諸国における家禽病研究者の研究能力向上にあることに鑑み、アセアン諸国を訪問して、各国の家禽産業の概要、家禽病の発生状況と対応策、関連機関の実情等を調べ、現状を把握する。

### 2) 長期調査員

担当	氏名	所 属
研究計画	勝屋 茂實	農林水産省家畜衛生試験場毒性病理研究室長
家禽衛生	袋地登志雄	農林水産省動物検疫所成田支所主任検疫官

### 3) 派遣期間

1985年10月21日～1985年12月4日(1.5カ月間)

### 4) 主な調査、訪問先

(フィリピン) 畜産局、畜産局診断部、畜産局研究部、フィリピン大学獣医学部・畜産学研究所、飼料工場、養鶏場

(タイ) 農業協同組合省畜産振興局、FMDセンター、飼料工場、食鳥処理場、養鶏場

(シンガポール) 開発省獣医局、家禽研究訓練所、獣医診断研究所、ワクチン検査所、養鶏場

(インドネシア) 農業省畜産総局、ボゴール家畜疾病研究所、ボゴール畜産試験場、製薬会社、民間ワクチン製造所、動物医薬品検査所、種鶏場、養鶏場、メダン家畜衛生センター

(マレーシア) 農業省獣医局、獣医学研究所、家禽繁殖センター、マレーシア農科大学、食鳥処理場



#### (4) マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画実施協議調査団

##### 1) 派遣の目的

事前調査及び長期調査の結果を踏まえ、マレーシア側関係者を協力の基本的枠組について協議し、討議議事録の署名、暫定実施計画の策定を行う。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	山極 榮司	国際協力事業団理事
団員	協力政策	永目伊知郎	外務省経済協力局技術協力課
〃	家禽病診断	藤田 陽偉	農林水産省畜産局衛生課長補佐
〃	家禽病研究	勝屋 茂實	農林水産省家畜衛生試験場飼料安全性研究部 毒性病理研究室長
〃	技術協力	小野 英男	国際協力事業団畜産開発課長

##### 3) 派遣期間

1986年4月7日～1986年4月18日(12日間)

##### 4) 主な調査、訪問先

農業省獣医局、国立獣医学研究所、マレーシア農科大学獣医畜産学部、アセアン・マレーシア事務所、ペラク州畜産局、種鶏場、養鶏場

#### (5) マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画計画打合調査団

##### 1) 派遣の目的

プロジェクト実施上の諸問題をマレーシア側および日本人専門家チームと協議し、TIPの詳細および今後の具体的な研究協力の内容について検討する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼疫学	國安 主税	農林水産省家畜衛生試験場鶏病支場長
団員	家禽病研究	吉原 忍	農林水産省家畜衛生試験場鶏病支場第4研究室長
〃	家禽病診断	井土 俊郎	日本生物科学研究所研究第2部次長
〃	業務調整	石井羊次郎	国際協力事業団畜産開発課

##### 3) 派遣期間

1987年3月4日～1987年3月13日(10日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業省獣医局、国立獣医学研究所、養鶏場、食鳥処理場、マレーシア農科大学、ペタリンジャヤ地域獣医学診断研究所

#### (6) マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画巡回指導調査団

##### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を評価・検討し、技術上及び運営上の問題点を現地の関係者と協議し、プロジェクトの年次実施計画、専門家派遣計画、機材供与計画、研修員受入れ計画、ローカルコスト負担事業計画に関し、マスタープランの目標を踏まえてT I Pの枠内で検討する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	國安 主税	農林水産省家畜衛生試験場研究第一部長
団員	鶏舎・運営管理	今井 邦彦	農林水産省家畜衛生試験場鶏病支場 第三研究室研究員
〃	疫 学	関谷 順一	農林水産省畜産局衛生課係長
〃	業務調整	石井羊次郎	国際協力事業団畜産開発課

##### 3) 派遣期間

1988年3月14日～1988年3月25日(12日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業省獣医局、国立獣医学研究所

#### (7) マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画巡回指導調査団

##### 1) 派遣の目的

プロジェクト開始(R/D署名)後約3年を経過した時点での中間評価—技術移転及び研究活動の進捗状況を調査し、技術上及び運営上の問題点を現地の関係者と協議し、今後のプロジェクト実施計画を検討する。

##### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団 長	総 括	山極榮司	国際協力事業団理事
副団長	細菌学	國安主税	農林水産省家畜衛生試験場研究第一部長
団 員	病理学	紺野 悟	北里大学獣医畜産学部教授

- 〃 疫 学 森山浩光 農林水産省畜産局畜政課課長補佐
- 〃 業務調整 草野孝久 国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1989年2月22日～1989年3月5日(12日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省獣医局、国立獣医学研究所、家禽病研究センター、マレーシア農科大学海洋水産学部

## (8) マレーシア・アセアン家禽病研究・訓練計画巡回指導調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を調査し、実施上の問題点について先方関係者及び日本人専門家に必要な助言・指導を行うとともに、最終年度の活動・投入計画について協議する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼家禽病研究	国安主税	農林水産省家畜衛生試験場研究第一部長
団員	SPF・実験鶏舎管理	湯浅 襄	農林水産省家畜衛生試験場総合診断研究部病原診断研究室長
	〃 寄 生 虫 学	藤崎幸蔵	農林水産省家畜衛生試験場研究第一部原虫研究室長
	〃 業 務 調 整	草野孝久	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1990年1月15日～1990年1月27日(13日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農業省獣医局、国立獣医学研究所、家禽病研究センター、ペナン地域家畜衛生診断所、ベタリンジャヤ家畜衛生診断所、マレーシア農科大学獣医学部、農業研究開発研究所

12. タイ国立家畜衛生・生産研究所計画

R/D署名日 (R/D) 1986年12月 9日

協力期間 (R/D) 1986年12月 9日～1991年12月 8日

調査団派遣

- ( 1) 1985年12月 事前調査団
- ( 2) 1986年 6月～ 7月 長期調査員
- ( 3) 1986年11月～12月 実施協議調査団
- ( 4) 1987年10月 計画打合せ調査団
- ( 5) 1990年 1月 巡回指導調査団

## (1) タイ国立家畜衛生・生産研究所計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

本計画要請の背景と位置付け、実施機関等の機能を確認するとともに、協力の範囲・枠組みについてタイ側関係者と協議し、円滑な実施協議につなげる。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	緒方宗雄	国際協力事業団国際協力専門員
団員	家 畜 衛 生	伊藤 全	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部長
	〃 畜産（飼料）	山本昭次	農林水産省東京肥飼料検査所飼料管理課長
	〃 業 務 調 整	上條哲也	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産技術課

### 3) 派遣期間

1985年12月11日～1985年12月20日（10日間）

### 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、口蹄疫ワクチンセンター、国立家畜衛生・生産研究所、カセサート大学

## (2) タイ国立家畜衛生・生産研究所計画長期調査員

### 1) 派遣の目的

タイ国家畜衛生・生産研究協力計画にかかる新研究所の設立に伴う既存の組織・機構の再編成等について調査し、併せて具体的な調査研究の項目と内容をタイ側と調整し、我国として効率的に対応できる協力事項を策定することにより、本計画の円滑な実施協議につなげる。

### 2) 長期調査員

伊藤 全 元農林水産省家畜衛生試験場研究第二部長

### 3) 派遣期間

1986年6月5日～1986年7月28日（54日間）

### 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、国立家畜衛生・生産研究所、FMDセンター、南部家畜衛生センター（ツンリン）、ハジャイ動物検疫所、動物用生物学的製剤製造センター、Chulalongkorn 大学獣医学部、コンケン家畜人工授精センター

### (3) タイ国立家畜衛生・生産研究所計画実施協議調査団

#### 1) 派遣の目的

プロジェクト方式技術協力を開始するにあたって、先方政府関係者と、プロジェクト実施のための協議を行い、「討議議事録」(R/D)並びに「暫定実施計画」(TIP)の署名交換を行う。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	徳田悟一	農林水産省家畜衛生試験場海外病研究部長
団員	家畜衛生	伊藤 全	国際協力事業団農林水産計画調査部特別嘱託
	〃 口 蹄 疫	杉村崇高	農林水産省家畜衛生試験場海外研究部診断研究室長
	〃 協力企画	石川利憲	農林水産省農林水産技術会議事務局国際研究課技術協力係長
	〃 業務調整	大堂志郎	国際協力事業団畜産開発課課長代理

#### 3) 派遣期間

1986年11月30日～1986年12月13日(14日間)

#### 4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、国立家畜衛生・生産研究所、FMDセンター

### (4) タイ国立家畜衛生・生産研究所計画計画打合せ調査団

#### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を調査し、実施上の問題点を把握し先方関係者及び日本人専門家に助言・指導するとともに、暫定実施計画に基づき詳細年次計画について検討・協議する。

#### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	宮本和美	国際協力事業団農業開発協力部長
団員	家畜衛生	熊谷哲夫	東京農工大学農学部教授
	〃 家畜衛生	徳井忠史	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部ウイルス第一研究室長
	〃 家畜生産	岡本哲男	農林水産省動物検疫所検疫部長
	〃 業務調整	青木正明	国際協力事業団畜産開発課

#### 3) 派遣期間

1987年10月21日～1987年10月31日(11日間)

4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、国立家畜衛生・生産研究所、FMDセンター

(5) タイ国立家畜衛生・生産研究所計画巡回指導調査団

1) 派遣の目的

プロジェクト開始以来3年間の活動状況、研究成果を調査し、プロジェクトの抱える問題を把握し、次年度実行計画を含め、先方関係者及び日本人専門家と協議するとともに必要な助言・指導を行う。

2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼口蹄疫	園田暁郎	農林水産省家畜衛生試験場海外病研究部長
団員	細菌学	寺門誠致	農林水産省家畜衛生試験場研究第一部細菌第二研究室長
〃	病理学	谷口稔明	農林水産省家畜衛生試験場研究第三部病理第二研究室長
〃	家畜防疫	境政人	農林水産省畜産局衛生課家畜衛生指導官
〃	業務調整	吉田敏男	国際協力事業団畜産開発課

3) 派遣期間

1990年1月16日～1990年1月27日(12日間)

4) 主な調査、訪問先

農業協同組合省畜産振興局、国立家畜衛生・生産研究所、FMDセンター、南部家畜衛生センター(ツンソン)

13. ボリヴィア家畜繁殖改善計画

R/D署名日 (R/D) 1987年 9月10日

協力期間 (R/D) 1987年 9月10日～1992年 9月 9日

調査団派遣

- (1) 1985年 2月 中南米農林業協力プロジェクトファイディング調査団
- (2) 1987年 3月 事前調査団
- (3) 1987年 8月～ 9月 実施協議調査団
- (4) 1988年11月 計画打合せ調査団



## (1) 中南米農林業協力プロジェクトファインディング調査団

### 1) 派遣の目的

ボリヴィア国より要請のある「サンタクルス家畜人工授精センター計画」並びにアルゼンチン国より要請のある「ラ・プラタ大学家畜ウィルス研究計画」の2要請案件を対象として、要請内容の確認・計画の位置付け、優先度、並びに協力の可能性等を把握するため調査を実施し、今後の検討上の基礎資料とする。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼家畜繁殖	新山正隆	農林水産省鳥取種畜牧場種畜課長
団員	家畜衛生	徳井忠史	農林水産省家畜衛生試験場海外病研究部免疫研究室室長
〃	協力企画	石橋隆介	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産技術課課長代理
〃	業務調整	新田 節	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1985年2月4日～1985年2月13日(12日間)

### 4) 主な調査、訪問先(ボリヴィア)

農牧省、農牧省サンタクルス支所、ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医畜産学部、エルブラド付属牧場、サーベドラ試験場、トードサントス畜産公団、JICA畜産総合試験場

## (2) ボリヴィア家畜改良計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

要請内容の確認、プロジェクト運営費の確保を含むボリヴィア側のプロジェクト実施体制の確認、およびプロジェクト協力実施の基本方針、協力の方法、協力の課題等の協力の基本構想に関し、ボリヴィア側関係機関と協議を行い、協力のフレームワークについてボリヴィア側との合意を得る。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	中野秀治	農林水産省鳥取種畜牧場長
団員	協力企画	森山浩光	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力官
〃	家畜衛生	三島和洋	農林水産省新冠種畜牧場衛生課長
〃	家畜繁殖	松原 聡	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター
〃	業務調整	小原基文	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産技術課

### 3) 派遣期間

1987年3月8日～1987年3月23日(16日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農牧省、農牧省サンタクルス支所、ガブリエル・レネ・モノレ大学、サンタクルス州開発公社、JICA畜産総合試験場、ベニ技術大学、民間牧場、ラ・バス家畜人工授精センター

## (3) ボリヴィア家畜繁殖改善計画実施協議調査団

### 1) 派遣の目的

事前調査の結果をふまえ、プロジェクト実施に関し、両国政府がとるべき措置につき討議を行ない、討議議事録(R/D)に署名を行なう。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	中野秀治	農林水産省鳥取種畜牧場場長
団員	協力企画	水田精一	農林水産省経済局国際協力課無償係長
	家畜繁殖	吉村史朗	農林水産省奥羽種畜牧場衛生課長
	家畜衛生	滝 俊博	農林水産省動物検疫所成田支所主任検疫官
	業務調整	穴戸健一	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1987年8月30日～1987年9月15日(17日間)

### 4) 主な調査、訪問先

農牧省、農牧省サンタクルス支所、ガブリエル・レネ・モレノ大学、エルブラド付属牧場、サンタクルス州開発公社、JICA畜産総合試験場、民間牧場、CIAT

## (4) ボリヴィア家畜繁殖改善計画計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況、ボリヴィア側実施体制を把握するとともに、ボリヴィア側関係者及び専門家チームと協議し、5年間の詳細実施計画を策定する。また、プロジェクト運営上、技術上の留意事項につき助言・指導する。

## 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	菱沼 毅	農林水産省大臣官房参事官
団員	家畜繁殖	小澤周司	農林水産省畜産局家畜生産課課長補佐
	家畜衛生	友利和博	沖縄県農林水産部畜産課衛生係長
	業務調整	穴戸健一	国際協力事業団畜産開発課

## 3) 派遣期間

1988年11月2日～1988年11月15日(14日間)

## 4) 主な調査、訪問先

農牧省、農牧省サントクルス支所、ガブリエル・レネ・モレノ大学、牛乳生産者協会、  
JICA畜産総合試験場、民間牧場

14. アルゼンティン・ラ・プラタ大学獣医学部研究計画

R/D署名日 (R/D) 1988年12月15日

協力期間 (R/D) 1989年 3月 1日~1994年 2月28日

調査団派遣

- |                |                           |
|----------------|---------------------------|
| ( 1 ) 1985年 2月 | 中南米農林業協力プロジェクトファインディング調査団 |
| ( 2 ) 1988年 4月 | 事前調査団                     |
| ( 3 ) 1988年 8月 | 長期調査員                     |
| ( 4 ) 1988年12月 | 実施協議調査団                   |
| ( 5 ) 1989年12月 | 計画打合せ調査団                  |

## (1) 中南米農林業協力プロジェクトファインディング調査団

### 1) 派遣の目的

ボリビア国より要請のある「サンタクルス家畜人工授精センター計画」並びにアルゼンチン国より要請のある「ラ・プラタ大学家畜ウィルス研究計画」の2要請案件を対象として、要請内容の確認・計画の位置付け、優先度、並びに協力の可能性等を把握するため調査を実施し、今後の検討上の基礎資料とする。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼家畜繁殖	新山正隆	農水省鳥取種畜牧場種畜課長
団員	家畜衛生	徳井忠史	農水省家畜衛生試験場海外病研究部免疫研究室室長
〃	協力企画	石橋隆介	国際協力事業団農林水産計画調査部農林水産技術課 課長代理
〃	業務調整	新田 節	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1985年2月4日～1985年2月13日(12日間)

### 4) 主な調査・訪問先(アルゼンティン)

農牧庁、ラ・プラタ大学、農業研究所

## (2) アルゼンティン・ラ・プラタ大学獣医学部研究計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

アルゼンティン側の要請内容は広範囲にわたっている為、協力内容の絞り込みとア側の実施体制の明確化、ローカルコスト負担の見通し等を調査すると共に、協力の枠組について明確にする。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総 括	鈴木直義	帯広畜産大学畜産学部獣医学科教授
団員	獣医教育	高橋英司	東京大学農学部獣医学科助教授
〃	家畜衛生	米村 弘	農林水産省動物検疫所検疫部企画調整課長
〃	協力企画	櫛山 博	文部省高等教育局技術教育課係長
〃	業務調整	青山正明	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1988年4月1日～1988年4月15日(15日間)

### 4) 主な調査・訪問先

教育省教育庁大学課、農牧水産庁、ラ・プラタ大学、ブエノス・アイレス州農業省、チャスコムス診断研究所、ブエノス大学、農業研究所

## (3) アルゼン・ラ・プラタ大学獣医学部研究計画長期調査員

### 1) 派遣の目的

「ア」側の実施体制等について調査を行なうとともにプロジェクトの基本計画、運営管理等について「ア」側関係者と協議する。

### 2) 長期調査員の構成

獣医学研究	光岡知足	東京大学農学部獣医学科教授
獣医学研究	鈴木直義	帯広畜産大学畜産学部獣医学科教授
獣医学研究	高橋迪雄	東京大学農学部獣医学科教授
技術協力	青木正明	国際協力事業団畜産開発課

### 3) 派遣期間

1988年8月7日～1988年8月21日(15日間)

### 4) 主な調査・訪問先

教育省教育庁大学課、農牧水産庁、ラ・プラタ大学、チャスコムス診断研究所、国立漁業学校プロジェクト、サンタカタリーナ付属牧場

## (4) アルゼンティン・ラ・プラタ大学獣医学部研究計画実施協議調査団

### 1) 派遣の目的

事前調査及び長期調査の結果を踏まえ、「ア」側関係者とプロジェクト実施に係る協議を行い、討議議事録の署名・交換を行うとともに暫定実施計画を策定する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所属
団長	総括	高橋迪雄	東京大学農学部教授
団員	獣医学研究	見上 彪	東京大学農学部教授
〃	研究協力	窪田敏志	文部省高等教育局専門教育課課長補佐
〃	企画調整	松尾昌一	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1988年12月8日～1988年12月20日(13日間)

### 4) 主な調査、訪問先

教育省教育庁大学課、農牧水産庁、ラ・プラタ大学

## (5) アルゼンティン ラ・プラタ大学獣医学部研究計画計画打合せ調査団

### 1) 派遣の目的

プロジェクトの進捗状況を調査し、問題点等について先方関係者及び日本人専門家と協議するとともに、2年次の研究小テーマの決定、次年度実行計画を策定する。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼獣医学研究	見上 彪	東京大学農学部教授
団員	研究計画	小川雄也	東京大学農学部事務長
〃	業務調整	小林一三	国際協力事業団農業開発課

### 3) 派遣期間

1989年12月4日～1989年12月16日(13日間)

### 4) 主な調査、訪問先

教育省教育庁、農牧水産庁、ラ・プラタ大学、農牧協会

15. 中国天津酪農業發展計画

R/D署名日 (R/D) 1990年 1月24日

協力期間 (R/D) 1990年 3月 1日~1995年 2月28日

調査団派遣

- |              |         |
|--------------|---------|
| (1) 1988年10月 | 事前調査団   |
| (2) 1990年 1月 | 実施協議調査団 |



## (1) 中国天津酪農業発展計画事前調査団

### 1) 派遣の目的

協力要請の背景及び内容をより詳細に把握し、国家開発計画におけるプロジェクトの位置付け、相手国実施体制等を明確にし、プロジェクト実施の可能性を確認するとともに、プロジェクトの実施基本方針について、中国側関係者と検討・協議し、プロジェクトの実施に関する提言、勧告等を行なう。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼育種	川村良平	農林水産省福島種畜牧場場長
団員	協力企画	森山浩光	〃 畜産局畜政課課長補佐
	〃 飼養管理兼繁殖	遠藤幸男	〃 岩手種畜牧場検定課長
	〃 業務調整	松尾昌一	国際協力事業団畜産開発課課長代理

### 3) 派遣期間

1988年10月4日～1988年10月15日(12日間)

### 4) 主な調査・訪問先

農業部外事司、天津市乳牛育種改良センター、天津市乳牛保健培訓センター、天津市乳類食品監測センター、天津市第3乳品廠、国营黄庄農場、国营紅光農場第2養牛場、個人・集団養牛場

## (2) 中国天津酪農業発展計画実施協議調査団

### 1) 派遣の目的

事前調査の結果を踏まえ、中国側関係者と本計画の実施に関し協議し、討議議事録の署名を行うとともに暫定実施計画、技術協力に関する討議議事録覚書について協議、署名を行う。

### 2) 調査団員の構成

	担当	氏名	所 属
団長	総括兼飼養管理	菱沼 毅	農林水産省大臣官房参事官兼畜産局
団員	家畜育種	遠藤 司	(社)家畜改良事業団調査第一部長
	〃 家畜繁殖	迫田 潔	農林水産省畜産局家畜生産課改良係長
	〃 協力企画	鈴木由紀夫	農林水産省経済局国際協力課プロジェクト係長
	〃 技術協力	山縣 正安	国際協力事業団畜産開発課

3) 派遣期間

1990年1月15日～1990年1月25日(11日間)

4) 主な調査・訪問先

農業部、天津市乳牛育種改良センター、天津市乳牛保健培訓センター、天津市乳類食品監  
測センター、国営黄庄農場

